當テ之ニ充テシムルコトヲ得（大一五、法七五本項中改正）

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

●衆議院議員選擧法罰則一覽表

●衆議院議員選擧法罰則一覽表

條	罪	罰
第一	詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者	百圓以下ノ罰金（第一一一條）
第二	投票管理者ヨリ本人ナル旨ノ宣告ヲ求メラレタルトキ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者	百圓以下ノ罰金（第一一一條）
第三	當選ヲ得ル／得シムル／得シメサル目的ヲ以テ選擧人／運動者ニ對シ金錢／物品／財産上ノ利益／公私ノ職務ノ供與ヲ爲シタル者／ノ申込ヲ爲シタル者／ノ約束ヲ爲シタル者（1）／饗應／接待ヲ爲シタル者／ノ申込ヲ爲シタル者／ノ約束ヲ爲シタル者（1）／其ノ者／其ノ關係アル社寺、學校、會社組合市町村等ニ對スル用水／小作／債權／寄附／特殊ノ直接／利害關係ヲ利用シテ誘導シタル者（2）	二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金（第一一二條）
第四	投票ヲ爲ス／爲ササル／運動ヲ爲ス／止メタル／其周旋勸誘ヲ爲シタル コト ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選擧人／運動者ニ對シ第三ノ(1)ノ行爲ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第五	第三ノ(1)ノ供與、饗應接待ヲ受ケタル者／要求シタル者／第三ノ(1)ノ供與、饗應接待ノ申込ヲ承諾シタル者／第四ノ(2)ノ誘導ニ應シタル者／第三ノ(2)ノ誘導ヲ促シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第六	第三／第四／第五ノ行爲ニ關シ周旋ヲ爲シタル者／勸誘ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第七	候補者タルコト／候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ候補者／候補者タラムトスル者ニ對シ第三ノ行爲ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第八	當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第三ノ行爲ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第九	候補者タルコト／候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト／當選ヲ辭シタルコト／當選辭退ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコト ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ候補者タリシ者／候補者タラムトシタル者／當選人タリシ者ニ對シ第三ノ(1)ノ行爲ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一三條）
第一〇	第七／第八／第九ノ供與、饗應接待ヲ受ケタル者／要求シタル者／申込ヲ承諾シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一一	第七／第八ノ勸誘ニ應シタル者／ヲ促シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一二	第七／第八／第九／第一〇／第一一ノ行爲ニ關シ周旋ヲ爲シタル者／勸誘ヲ爲シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一三	選擧人／候補者／候補者タラムトスル者／運動者／當選人ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者／威力ヲ加ヘタル者／之ヲ拐引シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一四	交通集會ノ便ヲ妨ケ／演說ヲ妨害シ／僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一五	選擧人／候補者／候補者タラムトスル者／運動者／當選人又ハ其ノ關係アル學校／會社／組合／市町村等ニ對スル用水／小作／債權／寄附／特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人／候補者／候補者タラムトスル者／運動者／當選人ヲ威逼シタルトキ	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一五條）
第一六	官吏／吏員選擧ニ關シ故意ニ職務ヲ怠リ職權ヲ濫用シ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキ	三年以下ノ禁錮（第一一六條）
第一七	官吏／吏員選擧人ニ對シ投票セムトスル／投票シタル被選擧人ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキ	三年以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金（第一一六條）
第一八	選擧事務ニ關係アル官吏／吏員／立會人／監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示（虛僞表示モ含ム）シタルトキ	二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金（第一一七條）
第一九	投票所／開票所ニ於テ止當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ干涉シタル者／被選擧人ノ氏名ヲ認知スル方法ヲ行ヒタル者	一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一一八條）
第二〇	法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キタル者／中ノ投票ヲ取出シタル者	三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一一八條）
第二一	投票管理者／開票管理者／選擧長／立會人／選擧監視者ニ暴行／脅迫ヲ加ヘタル者	四年以下ノ懲役又ハ禁錮（第一一九條）
第二二	選擧會場／開票所／投票所ヲ騷擾シタル者	四年以下ノ懲役又ハ禁錮（第一一九條）
第二三	投票／投票函／關係書類ヲ抑留／毀壞／奪取シタル者	四年以下ノ懲役又ハ禁錮（第一一九條）
第二四	多衆聚合シテ第一三／第二一／第二二／第二三ノ罪ヲ犯シタル者	一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮六月以上五年以下ノ懲役又ハ禁錮百圓以下ノ罰金又ハ科料（第一二〇條）
第二五	第一三／第二一／第二二／第二三ノ罪ヲ犯ス爲メ多衆聚合シ當該公務員（警察官吏）ヨリ三回以上解散ヲ命セラレタルニ解散セサルトキ	二年以下ノ禁錮百圓以下ノ罰金又ハ科料

第二四　多衆聚合シテ（第一三条第二二条第二三条）ノ罪ヲ犯シタル者……六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮百圓以下ノ罰金又ハ科料（第一二二条）

第二五　（第一三条第二二条第二三条）ノ罪ヲ犯ス爲メ多衆聚合シ當該公務員（警察官吏）ヨリ三回以上解散ヲ命セラレタルニ解散セサルトキ……二年以下ノ禁錮百圓以下ノ罰金又ハ科料（第一二二条）

第二六　選擧ニ關シ（銃刀鉋鋸砲棍）ヲ携帯シタル者……二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金（第一二三条）

第二七　銃刀鉋鋸砲棍人ヲ殺傷スルニ足ル物件ヲ携帯シテ（選擧會場投票所）ニ入リタル者……三年以下ノ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一二二条）

第二八　選擧ニ關シ（多衆聚合シテ隊伍ヲ組ミテ往來シ標火松明ノ類ヲ用ヒ鐘鼓喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヒ）等氣勢ヲ張リ行爲ヲ以テ選擧人ノ自由ニ對シ又ハ選擧ニ關シ公ノ職務ニ從事スル（官吏公吏）若ハ（選擧立會人監視者）ノ職務ノ執行ニ對シ暴行ヲ爲シ又ハ之ヲ脅迫シタル者……六月以上七年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金（第一二四条）

第二九　（演說新聞紙雜誌引札張札其他）ノ方法ヲ以テ（第一九乃至第二八）ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者（編輯人及實際編輯者ヲ含ム）……一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一二五条）

第三〇　（演說新聞紙雜誌引札張札其他）ノ方法ヲ以テ（得シムル）目的ヲ以テ候補者ノ（職業經歷）ニ關シ（虚僞ノ事項ヲ公ニシタル者（編輯人及實際編輯者ヲ含ム）……二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金（第一二六条）

第三一　選擧人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキ……一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一二七条）

第三二　氏名ヲ詐稱シ詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者……二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金（第一二七条）

第三三　投票（ヲ僞造ノ數ヲ増減）シタル者……三年以下ノ禁錮若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一二七条）

第三四　選擧事務ニ關係アル（官吏公吏立會人監視者）カ第三三ノ罪ヲ犯シタルトキ……五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ貳千圓以下ノ罰金（第一二七条）

第三五　立會人正當ノ事故ナクシテ本法上ノ義務ヲ缺クトキ……百圓以下ノ罰金（第一二八条）

第三六　候補者運動員以外ノ者カ選擧運動（演說推薦狀ハ含マス）ヲ爲シタルトキ……一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一二九条）

第三七　投票ヲ（得シムル）目的ヲ以テ（個々ノ選擧人ニ（面接シテ電話ニ依リ））運動ヲ爲シタルトキ……一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一二七条）

第三八　（運動員事務所）ニ關スル知事ノ命令（第九四條）ニ從ハサル者……百圓以下ノ罰金（第一三〇条）

第三九　事務所ヲ（候補者一人ニ付七ケ所以上設ケタル者……參百圓以下ノ罰金（第一三〇条）特ニ知事カ指定シタル時其ノ數以上設ケタル者……選擧當日投票所ノ入口ヨリ三町以内ニ設ケタル者……）

第四〇　（休憩所類似ノ設備）ヲ選擧運動ノ爲メ設ケタル者……

第四一　委員事務員）ヲ候補者一人ニ付五十人以上選任シタル者……

第四二　事務長ニ非サル者カ（事務所ヲ設ケタルトキ……委員事務員ヲ選任シタルトキ……）

第四三　選擧權ヲ有セサル者カ（事務長委員事務員）ニ爲リタルトキ……六月以下ノ禁錮又ハ參百圓以下ノ罰金（第一三一条）

第四四　選擧事務ニ關係アル（官吏）カ其ノ關係區域内ニ於ケル選擧運動ヲ爲シタルトキ……

第四五　事務長更迭ノ際（運動費用ヲ計算シ且他ノ事務ト共ニ）後任者ニ引繼ヲ爲ササルトキ……一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金（第一三二条）

第四六　事務長ノ選任者カ（直チニ選任ノ旨ヲ警察署ニ届出ヲ爲ササルトキ……事務長ノ異動ノ際直チニ右警察署ニ届出ヲ爲ササルトキ……事務長ノ代リテ職務ヲ行フ場合及之ヲ罷メタル際直チニ右届出ヲ爲ササルトキ）

第四七　事務長カ（事務所ヲ設置（運動員ヲ選任）シタルトキ直チニ最初ニ届出ノ警察署ニ届出ヲ爲ササルトキ）

第四八　選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル制限（大正十五年二月（省令五號））ニ違反シタルトキ……百圓以下ノ罰金（第一三二条）

第四九　事務長（事務長ニ代ル者）カ知事ノ告示シタル運動費用額ニ超過シテ（候補者運動費用ヲ支出シタルトキ……ヘテ支出セシメタルトキ）……一年以下ノ禁錮（第一三三条）

第五〇　候補者運動員）カ事務長ノ文書ニ依ル承諾ナクシテ運動費用（立候補準備費用ヲ除ク）ヲ支出シタルトキ……

第五一　第三者（候補者運動員以外ノ者）カ（演說推薦狀）ニ依ル運動費用以外ノ費用ヲ支出シタルトキ……一年以下ノ禁錮（第一三四条）

第五二　事務長カ（規定ノ帳簿（承諾簿（訂價簿）支出簿）ヲ備ヘサルトキ……ニ運動費用ヲ記載セサルトキ……選擧期日ヨリ十四日以内ニ運動費用ヲ精算シ警察署ヲ經テ知事ニ（届出ヲ爲ササルトキ……虚僞ノ記入ヲ爲シタルトキ……）運動費用ニ關スル帳簿、書類（ヲ一年間（知事ニ届出ノ日ヨリ）保存セサルトキ……ニ虚僞ノ記入ヲ爲シタルトキ……）警察官吏ニ對シ選擧期日後帳簿書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ……ノ檢査ヲ拒ミ妨ケタルトキ……ニ關スル說明ニ應セサルトキ……六月以下ノ禁錮又ハ參百圓以下ノ罰金（第一三五条）

第五三　當選人カ第一乃至第五二ニ依リ處罰セラレタルトキ……事務長カ第三乃至第一二ニ依リ處罰セラレタルトキ（選任及監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキヲ除ク）……當選無効（第一三六條）

ラテ之ニ充テシムルコトヲ得（大一五、法七五本項中改正）

●地方議會議員ノ選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

（大正十五年六月二十四日　内務省令第二十一號）

北海道會法第十四條、府縣制第三十九條、市制第三十九條ノ二及町村制第三十六條ノ二ニ依リ選擧運動ノ爲頒布シ又ハ掲示スル文書圖畫ノ制限ニ關スル件左ノ通定ム

地方議會議員ノ選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

北海道會、府縣會、市會（市制第六條ノ市ノ區ノ區會ヲ含ム）及町村會ノ議員ノ選擧ニ付テハ大正十五年内務省令第五號選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件ヲ準用ス但シ同令第三條中百箇トアルハ左ノ各號ニ依ル

一　北海道會議員、府縣會議員及市制第三十九條ノ二ノ市（又ハ區）ノ市會議員（又ハ區會議員）ノ選擧ニ付テハ三十箇

二　前號ノ市（又ハ區）以外ノ市（又ハ區）ノ市會議員（又ハ區會議員）及町村會議員ノ選擧ニ付テハ十箇

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際大正十五年内務省令第五號選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同令ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

第三章　農村竝勞働

●小作問題報告方ノ件

（大正九年七月十九日）
（内示甲第二號）

（備考）　本件ハ左記數多ノ通牒カ互ニ相聯絡シテ甚タ渋滞ニ亙レルヲ以テ之カ通覽ノ便宜上編者カ彼此編序セルモノナリ

一　大正一四年八月特内示甲八號取扱内示

一　大正一五年九月特内示甲發五號記載要項指示

一　大正一五年一〇月特内示乙發七五八號同盟不納ノ解釋

一　大正一五年一〇月特内示甲七號記入標準

近時小作爭議ノ數漸ク多キヲ加ヘ之カ視察取締ニ關シテハ充分注意ヲ要スヘキモノアルニ付キ爾後其ノ發生ニ際シテハ機宜ノ措置ヲ誤ラサルト共ニ其ノ狀況ハ隨時報告スルハ勿論落着ノ上ハ別紙樣式ニ依リ報告セラルヘシ

記（大正十五年九月二十五日特内示甲發五號通牒）

一　農業爭議發生シタルトキハ別紙第一號樣式ニ依リ速ニ報告シ爾後特ニ必要ト認ムル事件發生ノ場合ハ電話ヲ以テ報告スルコト

二　小作爭議ニ關スル犯罪ヲ檢擧シタル時ハ其ノ都度普通文書ヲ以テ詳報シ

三　小作爭議ニ關シ左記各號ノ一ニ該當スル爭議手段ノ實行アリタル場合ニハ其ノ都度普通文書ヲ以テ報告スルハ勿論ナルモ尙ホ別紙第三號樣式ニ依リ一事件一葉毎ニ報告スルコト左記各號括弧内ノ事項ハ第三號樣式中「爭議手段遂行ノ概要」欄中ニ之ヲ明記スルコト

（イ）　土地立入禁止假處分ヲ爲シタルモノ（立入禁止假處分）

（ロ）　立毛差押處分（假差押處分ヲ含ム以下同シ）ヲ爲シタルモノ（立毛差押假處分）

（ハ）動産不動産ノ差押處分（假差押處分ヲ含ム以下同シ）ヲ爲シタルモノ（差押物件ノ種類及點數竝價格）
（ニ）多數申合ノ上土地返還請求訴訟ヲ提起シタルモノ（地主及小作人ノ數竝訴訟地段別）
（ホ）小作人側ニ對抗スル爲他人ヲ多數雇入レタルモノ（被雇者ノ種類及數竝期間）
（ヘ）土地立入禁止假處分ノ對策トシテ共同植付又ハ共同耕作ヲ爲シタルモノ（出動人員ノ種類及數竝植付又ハ耕作段別）
（ト）立毛差押處分ノ對策トシテ共同刈取ヲ爲シタルモノ（出動人員ノ種類及數竝刈取段別）
（チ）土地立入禁止、立毛差押、動産不動産ノ差押處分執行ニ際シ多數集合シテ妨害的行動ニ出テタルモノ（參集者ノ種類及數）
（リ）差押物件ノ競賣ニ際シ多數集合シテ妨害的行動ニ出テタルモノ
（ヌ）小學兒童ノ同盟休校ヲナサシメタルモノ（休校兒童數及日數）
（ル）公課滯納ノ決議又ハ實行ヲ爲シタルモノ（公課ノ種類及金額竝滯納期間）
（ヲ）多數團結シテ慣習ニ依ル交際ヲ斷ツコトヲ決議シ又ハ實行シタルモノ（被斷絶者ノ種類及數）
（ワ）小作料金額ノ同盟不納ヲ爲シタルモノ（同盟不納者數及不納小作料ノ總額）

右解釋（大正十五年十月三十日特內示甲第七號通牒）

一　小作人カ同盟不納ノ決議又ハ申合セヲナシタルモ慣例又ハ契約ニヨル納米期ニ至ルモ控米ノ全額ヲ支拂ハス事實上不納同盟ト認メラルルモノ
二　小作人カ同盟不納ノ決議又ハ申合セヲナササルモ

（カ）特定商人ニ對スル同盟不買若ハ賣掛代金ノ同盟不拂又ハ特定金融機關ニ對スル同盟取付ヲ爲シタルモノ（商人ノ種類及數又ハ金融機關ノ名稱）
（ヨ）青年團消防組等ノ分裂脫退ノ決議又ハ實行ヲ爲シタルモノ（分裂又ハ脫退者ノ數）
（タ）其ノ他特ニ注意ヲ要スト認メタル爭議手段ヲ用ヒタルモノ

特ニ注意ヲ要スト認メタルモノ（大正十四年八月二十八日特內示甲第八號通牒）

一　小作條件ニ關シ共同要求ニ出テタル時
二　共同要求ニアラスト雖モ
（一）要視察要注意人ノ介入
（二）各種團體ノ應援又ハ背影アル時
（三）小作調停法ニヨル調停申立
（四）民事訴訟ノ提起
（五）小作紛議ニ伴フ犯罪ノ發生
（六）耕地ノ返還

第一號樣式（用紙美濃紙）

小作爭議報告表

爭議發生ノ場所		發生年月日	
		終結年月日	
爭議關係人	地主　人 小作人　人	爭議關係地	田 畑 何々
		種類面積	

年　月　日報

廳府縣名
警察署名

第一號樣ノ裏面

爭議關係地主ノ加盟スル地主團體名竝其ノ所屬團體系統	
爭議ノ發生ヲ見ルニ至リシ事情	
要求事項	
爭議ノ經過（結果）	
備考	
爭議參加小作人ノ加盟スル小作人團體名竝其ノ所屬團體系統	

○宣傳ビラ印刷物其ノ他參考トナルヘキ書類ハ之ヲ添付スルコト

●小作爭議報告表記入方ノ件

（大正十五年十月二十五日　特內示乙發第七五八號）

小作爭議報告表記載方ニ關シテハ爭議ノ內容狀態一樣ナラサルヲ以テ一律ニ論スル能ハサルハ勿論ナルモ大體左記標準ニ據ラルヘシ

記

一「爭議ノ發生ヲ見ルニ至リシ事情」

イ　爭議地一段歩ノ豊年平年ノ收穫高

ロ　爭議地一段歩ノ最高最低平均ノ掟額

ハ　爭議地一段歩ノ本年收穫豫想高

ニ　爭議地ニ於ケル小作契約竝ニ小作慣行竝ニ爭議ノ動機原因

ホ　小作人ノ要求理由詳細

二「要求事項」

永久掟下ナリヤ一年限リノ掟下ナリヤヲ明カニシテ要求事項ヲ詳細

三「爭議ノ經過」

イ　爭議發生前ノ準備行動

ロ　要求ノ狀況

ハ　要求後双方ノ對抗行動詳細其ノ他關係組合竝ニ調停者及ヒ第三者ノ同爭議ニ關スル行動全部

四　備考

爭議關係地主小作人中關係地主團體小作人團體ニ加盟シ居ル人員數其ノ他參考トナルヘキ事項

第二號樣式　表（用紙美濃紙）

小作爭議ニ關スル犯罪檢擧調

年　月　日報告

廳府縣名

警察署

爭議發生ノ場所	檢擧ノ日	爭議ノ始終期	犯罪ノ日時及場所	犯罪事實ノ概要	罪名及適用法條	檢擧人員	處分ノ結果

第二號樣式　裏

注意　一　本表ハ即決處分ニ附シタルモノ及檢事ニ事件ヲ送致シタルモノニ付調査スルコト

二　檢擧人員中女アルトキハ（　）ヲ附シテ內書スルコト

三　處分未決ナルモノハ其ノ旨朱書シ爾後處分確定ノ都度追報スルコト

四　檢擧人員中爭議關係ノ地主、小作人以外ノモノアリタル時ハ（　）ヲ附シテ其ノ人員數ヲ內書スルコト

五　本表ハ犯罪檢擧一件毎ニ作製ノコト

第三號樣式　表（用紙美濃紙）

小作爭議ニ關スル爭議手段調

年　月　日報

廳府縣名

警察署名

爭議手段ノ種類	爭議發生ノ場所	爭議手段遂行ノ目的（始終期）及場所	爭議手段遂行關係者ノ種類及數	爭議手段遂行ニ至リシ事情	爭議手段遂行ノ概要	終結狀況
			參加者	相手方		

第三號樣式　裏

注意　一　爭議手段ノ種類欄ニハ例ヘハ「土地立入禁止」「學童罷休」等簡略ニ記載スルコト

二　「爭議手段遂行關係者ノ種類及數」欄中ノ「參加者」トハ當該爭議手段ノ實行ニ參加シタルモノヲ謂フ

三　本表ハ爭議經過中別途報告シタルモノニ付テモ再起報告スルコト

四　本表ニヨリ報告シタル事項ニシテ其後尙同一狀態ヲ繼續スルトキハ其ノ終結ニ至ル迄其ノ狀況ヲ續報スルコト、但シ此ノ場合ニ於テハ當該事項ノ「爭議手段ノ種類」欄外上部ニ朱ニテ〇印ヲ附シ新規報告ノ分ト區別スルコト

●地主小作組合名簿ニ關スル件

（大正九年十一月十七日　內示甲第七號）

沿革　大正九年一二月二三日內示甲第八號改正

地主、小作組合名簿作成上必要有之候條其署部內ニ於ケル組合別紙樣式ニ依リ本月三十日迄ニ遲滯ナク報告セラルヘク尙今後異動ヲ生シ又ハ組合組織シタル場合ハ其都度報告セラルヘシ

第一號樣式

小作人（地主又ハ地主小作協調的）團體表

名稱	何々會又ハ何々組合	事務所所在地	
創立年月日		維持ノ方法	
團體組織ノ地域		主幹者及主ナル關係者ノ住所氏名	
團體員ノ種類及員數	小作人又ハ地主等　何名		
趣旨又ハ綱領			
事業竝行動			
年齡略歷			

（廳府縣名）

一　本表記載事項中團體員ノ種類及數ヲ除クノ外ハ異動ノ都度之ヲ報告スルコト

一　團體員ノ種類、總數ハ「團體成立ノ場合ヲ除キ」毎年末日現在ニ依リ一月十日迄ニ報告スルコト、但シ甚シキ異動アリタルトキハ其ノ都度報告スルコト

一　趣旨又ハ綱領ノ外會則規約等參考トナルヘキモノハ之ヲ添付スルコト

一　本表用紙ハ美濃紙トスルコト

第二號樣式　表

農事爭議表（第　報）

爭議發生月日		爭議ノ場所	
同　終息月日			

廳府縣名、

月　日報

參加人員及種類	地主　人 小作人　人
爭議ニ關スル耕地ノ種類面積	田又ハ畑 何町何段歩
爭議ノ原因	
爭議ノ經過	
結果	

第二號樣式　裏

備考	（犯罪檢擧其他）

一　爭議ノ期日永キニ亙ルモノハ本表ノ外更ニ經過又ハ結果ヲ其ノ都度普通ノ文書ニ依リ報告スルコト

一　用紙ハ美濃紙トスルコト

●小作問題ニ關聯セル民刑事件報告方ノ件

（大正十年十月二十四日）
（內示甲第五號）

小作問題取締上參考ニ供シ度候條將來同問題ニ關聯セル民刑事件發生シ事件送致又ハ即決處分ヲ爲シタルトキハ左記樣式ニ依リ其ノ都度報告シ事件確定シタルトキハ更ニ其ノ旨報告セラルヘシ

小作問題ニ關スル刑事々件調

罪名	犯罪事實概要	送致又ハ即決年月日	刑名刑期確定年月日	被告人住所氏名	備考

●農業爭議ニ件フ暴擧報告方ノ件

（大正十年十二月十二日
警保發第一六九號）

警保局長ヨリ各廳府縣長官宛

本年中發生シタル農業爭議ニ伴ヒ團結的威力ヲ惡用シ暴行脅迫等ノ手段ニ出テタリト認メラルルモノニ付左記事項御調査ノ上本月末日迄ニ御報告相煩度尚今後此ノ種ノ事業發生シタル時ハ其ノ都度速ニ御詳報相成樣致度

記

一　爭議ノ發生シタル場所及日時
一　爭議ニ關係アル地主及小作人竝ニ其ノ範圍
一　暴行脅迫等ノ狀況及程度
一　檢擧ノ顚末
一　暴行脅迫其ノ他犯罪事實アリト認メラルルモノニシテ檢擧シ得サルモノ及其ノ事理

訴狀 概要 提起年月日 取下確定年月日	結果	原告住所氏名	被告住所氏名

一　同上四圍ノ事情ニ依リ檢擧ヲ爲ササリシモノ及其ノ事由
一　暴行脅迫其ノ他犯罪事實ナキニ不拘之レアリト傳ヘラレタルモノ及其ノ傳ヘラルルニ至リタル事理
一　要視察人關係ノ有無竝ニ其ノ狀況

●勞働爭議調停法

（大正十五年四月九日
法律第五十七號）

第一條　左ニ揭クル事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

一　蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業
二　公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業
三　第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ
四　其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ
五　陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ
六　前項ニ揭クル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得

第二條　調停委員會ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三條　調定委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ勞働爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四條　勞働爭議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日內ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日內ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定スヘシ此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス

第五條　委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條　委員定マリタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ招集シ之ヲ開會スヘシ

第七條　調停委員會ニ議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條　調停委員會ハ勞働爭議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

第九條　調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五日內ニ調停手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十條　調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十一條　調停委員會ノ議事ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セス

行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得

第十三條　調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席說明ヲ求メ又ハ說明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他爭議ノ關係場所ニ立入リ、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ於テ知得タル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第十六條　第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會ノ決議セル爭議調停案及之ニ關スル少數意見ヲ表示スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ勞働爭議解決スルニ至ラサリシトキハ調停委員會ハ其ノ顚末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第十七條　行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ勞働爭議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員カ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條　第一條第一項ニ揭クル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ爭議ニ關係アル使用者及勞働者竝其ノ屬スル使用者團體及勞働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ揭クル目的ヲ以テ其ノ爭議ニ關係アル使用者又ハ勞働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一　使用者ヲシテ勞働爭議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

二　勞働者ノ集團ヲシテ勞働爭議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ

拒絶セシムルコト

第二十條　故ナク第十三條ニ規定スル出席說明又ハ說明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第十三條ノ場合ニ於テ虛僞ノ說明ヲ爲シタル者
二　故ナク第十四條ノ規定ニ依ル立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者
三　第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條　第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅第百九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●勞働爭議調停法施行令

（大正十五年六月二十四日）
（勅令第百九十六號）

第一條　勞働爭議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ爭議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）之ヲ行フ
同一ノ爭議カ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ內務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條　內務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得但シ內務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトスルトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第三條　第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ爭議ニ付テハ遞信大臣トス

第四條　調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
一　爭議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
二　爭議ニ關係アル勞働者ノ概數
三　代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項
四　調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所
五　爭議ノ要求事項
六　爭議ノ經過概要

第五條　當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條　調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第七條　調停委員會勞働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ結了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス
前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第八條　調停委會員ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ勞働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九條　勞働爭議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費、日當及止宿料トス
前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以內ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附　則

本令ハ勞働爭議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年七月一日ヨリ施行）

（別表）

區分		鐵道賃及船賃	車馬賃	
		一里ニ付	日當 一日ニ付	止宿料 一夜ニ付
委員	二等	九十錢	六圓	八圓
當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人	二等	七十五錢	三圓	五圓

備考　鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

●勞働爭議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件

（昭和二年二月十四日　岐阜縣令第十號）

第一條　勞働爭議調停法第十八條及同法施行令第九條ニ依ル委員其ノ他ノ者ニ支給スヘキ旅費日當及止宿料ハ當分ノ內別表ニ掲クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃及車馬賃トス鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

第三條　陸路旅行ヲ爲スニ當リ軌道ニ依ルコトヲ得ル場合ニ於テハ其區間ニ限リ其ノ實費額ヲ支給ス

鐵道旅行ヲ爲シ得ル區間ニ付公務ノ爲軌道ニ依リ旅行シタルトキハ軌道ノ實費額ヲ支給ス

第四條　會議ノ爲招集ヲ受ケ又ハ說明ノ爲出席シタル場合ニ於ケル旅費ハ當事者ノ選定シタル委員、當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人ニ付テハ其ノ住居カ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以內ニ在ルトキハ之ヲ支給セス

第五條　日當ハ止宿シタル場合タルト否トヲ問ハス日數ニ應シテ其ノ全額ヲ支給ス

止宿料ハ公務ノ都合ニ依リ止宿シタル場合ニ限リ之ヲ支給ス

第六條　調停委員會ノ期間カ十五日以上ニ延長セラレタルトキハ委員ニ支給スヘキ日當及止宿料ハ超過日數ニ付定額ノ二割ヲ減ス

第七條　前各條ニ規定スルモノヲ除ク外旅費日當及止宿料ノ支給ニ關シテハ內國旅費要則ノ規定ヲ準用ス

（別表）

區分		鐵道賃及船賃	車馬賃	
		一里ニ付	日當 一日ニ付	止宿料 一夜ニ付
委員	二等	九拾錢	四圓	五圓
當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人	二等	七拾五錢	二圓	三圓

備考　鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

●勞働者異動ニ關スル報告方ノ件

（大正九年三月十五日　特內示第二號）

沿革　六五一一年二月十三日特內示甲第四號、第一號表、大正一二年八月一日特內示甲第六號第二號表中改正

時局ノ影響ニ依ル事業ノ休廢又縮少等ニ關シ客年二月十五日附特內示甲第一九九號內示ニ基キ報告有之候處右ハ二月限リ廢止シ本月以降ハ一般職工移動狀況ヲ別紙樣式ニ依リ當該月分ヲ取纏メ翌月六日迄ニ報告セラルヘシ

追而別紙樣式中工業種類ハ大正六年十月九日官報千五百六十五號（四一七頁）工業種類分類ニ依ルノ外諸人夫仲仕纖（坑夫ニ就テモ同樣調査セラルヘシ

第一號表

職工異動調

廳府縣名

大正　年　月分

工業種類	解雇				入				月末現在			
	工場數	職工數			工場數	職工數			工場數	職工數		
		男	女	計		男	女	計		男	女	計
製糸業												
紡績業												
撚糸業												
眞綿製糸業												
製綿業												
織物業												
染色整理其他ノ加工業												
組物編物業												
刺繍業												
染織雜業												

機械製造業												
船舶車輪製造業												
器具製造業												
金屬品製造業												
窯業												
製紙業												
漆器業												
製革及毛皮精製業												
發火物製造業												
製油及製蠟業												
製薬業												
護謨製造業												
化粧料品製造業												
石鹸及蠟燭製造業												
染料、塗料、貝料、糊料類業												

人造肥料製造業												
化學雜業												
釀造業												
製糖業												
煙草業												
製茶業												
精穀製粉業												
ラムネ、氷、鑛泉業												
菓子製造業												
罐詰、瓶詰業												
畜產品製造業												
水產物製造業												
飲食物雜業												
印刷製本業												

紙製品業												
木竹蔓莖製品業												
皮革製品業												
羽毛製品業												
藺莚麥稈及經木眞田業												
玉石牙骨介甲及角製品業												
雜工雜業												
電氣業												
瓦斯業												
金屬精煉業												
計												
諸人夫仲仕	／	／	／	／	／	／	以上省大正十三年九月四日					
合計												

（大正十二年八月一日特內示甲第六號ニテ針業ヲ除ク）

（大正十一年二月十三日特內示甲第四號本表改正）

（第二號樣式）

甲　業務ヲ廢止又ハ休止シ全職工ヲ解雇シタル工場

工場名	業務	解雇職工數			備考
		男	女	計	
					本欄ニハ左ノ事項ニ付略記スルコト 一　解雇ニ際シ工場主ノ採レル措置 二　廢止又ハ休止ノ事由 三　廢止又ハ休止ノ區別
合計					

（第二號樣式）

乙　新設又ハ業務ヲ復舊シ新ニ職工ヲ雇入レタル工場

工場名	業務	雇入職工表			備考
		男	女	計	
					本欄ニハ新設及復舊ノ區別ヲ記入スルコト
合計					

（第三號樣式）

解雇者歸趨別調

種別	男			女			計		
同種工業ニ轉職セル者									
他種工業ニ轉職セル者									
歸農セル者									
其他									
未從業者									
不詳									
合計									

參考

一　第二號樣式甲表備考欄中解雇ニ際シ工場主ノ採レル措置ハ可成詳細ニ調査ヲ遂ケ殊ニ解雇職工ニ對スル給與等ハ必ス明記スルコト

二　本調査ハ諸人夫仲仕鑛（坑）夫ヲ除ク他ハ總テ工場法適用工場ニ關シ調査ヲ遂クルモノトス

●調査要領

大正十三年九月分以降ヨリ左記ニ依リ調査相成度

一　第一號表中諸人夫、仲仕ニ付テハ解雇及雇入ノ調査數字ヲ省略シ月末現在ニ付キテノミ報告ノコト

二　第一號表中職工ハ適用工場ニシテ常時職工五十人以上ヲ使用スル工場ニ限リ諸人夫、仲仕ハ官設事業及鑛業法適用ノ鑛業ヲ除キ別紙ニ掲クル事實ニツキ調査スルコト

三　第三號表ノ調査數字中ニハ諸人夫、仲仕ニ關スル數字ヲ含マシメサルコト

（大正十三年九月六日　特內示甲第四號）

（大正十五年十月四日　特內示甲第六號）

諸人夫ノ仲仕ニ付テハ左記事業中常時十五人以上諸人夫仲仕ヲ使用スル事業ニツキ調査スルモノトス

一　土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、修理解體又ハ其ノ準用若ハ基礎工事

二　道路、鐵道、軌道又ハ旅客若ハ貨物ノ運送

三　船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ノ貨物取扱

以上ノ標準ニ依リ調査シタル數字ハ第一號表諸人夫仲仕ノ月末現在欄ニ其ノ總計ヲ掲載スルコト

（大正十一年二月二日　特內示甲第二號）

●勞働問題ニ關スル件

沿革　大正一五年九月二十五日特內示甲第四號一部改正

勞働問題ニ關スル報告方ニ付テハ今回左記ノ通相定候ニ付取扱上遺漏ナキヲ期セラルヘシ

追テ本件內示ニ依ル事業主團體及其大部、勞働團體及其支部竝事業主若クハ勞働團體聯合（同盟）會及其支部ノ名簿ハ大正十年十二月末現在ニ依リ本月十三日迄ニ進達セラルヘシ

警察部長ヨリ各警察官署長宛

左記

一　左記各號ノ一ニ該當スル團體ノ組織アリタルトキハ其ノ事務所々在地ノ警察署長ニ於テ別紙第一號乃至第三號樣式ニ依リ各其ノ名簿ヲ調製シ團體ノ會則規約等(美濃紙ニ描寫又ハ貼付シタルモノ可成二部)ヲ添ヘ之ヲ進達スルコト

(イ)　事業主團體(勞働條件ニ關スル事項ヲ其ノ綱領ノ一トシ又ハ實質上之ニ關シ行動スル事業主ノ組織スル團體)又ハ其ノ支部

(ロ)　勞働團體(勞働條件ノ維持改善ヲ其ノ綱領ノ一トシ又ハ實質上之ニ關シ行動スル勞働者(工場、鑛山、海上交通勞働者、大工、左官、石工、仲仕人夫日雇稼其他)ノ組織スル團體)又ハ其ノ支部

(ハ)　前號團體ノ聯合會若ハ同盟會又ハ其ノ支部

二　前項名簿及其ノ添付書類中趣旨綱領、會則、名稱、事務所、主ナル役員、其ノ他ノ著シキ異動ハ其ノ都度報告シ其ノ他ノ異動ハ毎年六月及十二月末日現在ニ據リ各其ノ翌月五日迄ニ報告スルコト

三　勞働團體ニシテ第一項(ロ)號及(ハ)號ノ團體ニ屬セサルモノノ組織アリタルトキハ其ノ事務所所在地ノ警察署長ニ於テ第四號樣式ノ一ニ依リ名簿ヲ調製シ直ニ報告スルコト

四　前項ノ團體數ハ別紙第四號ノ二及第五號式ニ依リ毎年六月及十二月末日現在ニ據リ各翌月十日迄ニ報告スルコト

五　第三項ノ團體ニシテ第一項(ロ)號又ハ(ハ)號ノ團體ニ該當スルニ至リタルトキハ第一項ノ手續ヲ爲スコト

六　左記各號ノ一ニ該當スル勞働爭議(甲類)發生シタルトキハ直ニ爭議發生ノ場所、工場鑛山等ノ名稱、發生月日、事業ノ種類、資本金、企業系統、事業主名(法人組織ニアリテハ代表者ノ氏名)、使用勞働者數(男女別)、爭議參加者數、爭議發生ヲ見ルニ至リシ事情、要求事項、關係勞働組合ノ狀況等(必要アリト認ムル場合ハ其ノ場所及爭議本部ノ位置ヲ示ス略圖ヲ添付シ)ノ事項ヲ具シ報告シ爾後ノ經過ニ付テハ時々報告スルコト但シ左ニ掲クル(イ)(ロ)(ハ)ノ一ニ該當スルモノニシテ工場閉鎖、同盟罷業又ハ怠業ヲ伴フモノ其ノ他特ニ必要ト認ムルモノニ付テハ事件ノ要領ヲ電報ヲ以テ先ツ報告スルコト

(イ)　常時使用勞働者五百人以上ヲ有スル工場、鑛山等ニ於ケル勞働爭議

(ロ)　參加人員二百人以上ノ勞働爭議

(ハ)　公益事業ニ於ケル勞働爭議

(ニ)　工場閉鎖ヲ伴フ勞働爭議

(ホ)　同盟罷業又ハ怠業ヲ伴フ勞働爭議

(ヘ)　其ノ他特ニ注意ヲ要シ又ハ異例ニ屬スル勞働爭議

七　削除

八　第六項ニ該當スル勞働爭議カ解決シタルトキハ別紙第七號樣式ニ依リ其ノ爭議解決後五日以內ニ之ヲ報告スルコト

九　勞働爭議ニシテ第六項ニ該當セサルモノ(乙類)ニ付テハ別紙第九號樣式ニ依リ其ノ月中ニ發生シタルモノ及其ノ月中ニ解決シタルモノヲ取纏メ翌月五日迄ニ報告スルコト尙其ノ月以前ニ發生シタルモノト雖引續キ未解決ナルトキハ本表中ニ掲記スルコト

十　勞働爭議ニ關スル犯罪ヲ檢擧シタルトキハ別紙第十號樣式ニ依リ其ノ月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ報告スルコト

十一　削除

十二　工場、鑛山等ニ於ケル勞働者ノ總數ニ付別紙第十二號樣式ニ依リ毎年六月末日及十二月末日現在ニ依リ調査ノ上各翌月十五日迄ニ報告スルコト

十三　常時百人以上ノ勞働者ヲ使用スル工場、鑛山等ニ於テ事業ノ休止、廢止、縮少其ノ他ニ因リ解雇者ヲ出シタルトキハ別紙第十三號樣式ニ依リ其ノ都度報告スルコト但シ勞働爭議ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

十四　常時五百人以上ノ勞働者ヲ使用スル工場、鑛山等ニ付テハ別紙第十五號樣式ニ依リ毎年六月末日及十二月末日現在ニ依リ調査ノ上各翌月十五日迄ニ報告スルコト

十五　削除

十六　工場鑛山等ニ於テ勞働委員制度ノ組織アリタルトキハ別紙第十六號樣式ニ依リ報告スルコト

十七　前項ノ報告ヲ爲シタル後勞働委員制度消滅シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ其ノ報告事項ニ著シキ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度報告スルコト

（參考表）

（一）存續ニ屬スルモノ

發令年月日	訓令又ハ通牒番號	件名
大正六年八月八日	內務省秘第一五五七號	同盟罷業ニ關スル注意ノ件
大正七年九月二日	同　第二一三六號	勞働爭議未然防止方ノ件
大正八年八月二十五日	同　第二一五六號	治安警察法第十七條適用ニ關スル件
大正八年十月十六日	同　第二六四二號	勞働運動偵知機關設置等ニ關スル件
大正九年三月十三日	同主要廳府縣　第五五九號	勞働者異動ニ關スル件
大正十年七月十二日	內務省訓第六〇九號	勞働要視察人視察內規
大正十年八月十五日	同　第六六八號	勞働爭議ニ對スル取締ニ關スル件
大正十年八月十五日	同　秘第一四三〇號	神戶市ニ於ケル勞働爭議狀況等ニ關スル件

（二）消滅スルモノ

發令年月日	通牒番號	件名
大正七年十月十四日	內務省秘第二五六〇號	勞働團體及資本主業務上ノ團體設立ニ關スル件
同　七年十二月二十一日	同　第三〇二一號	休職ノ影響ニ依ル事業休廢ニ關スル件
同　八年八月五日	同　第一九五三號	同盟罷業ニ關スル件
同　八年十月十四日	警保發第一一六號	勞働時間短縮ニ關スル件
同　八年十一月二十四日	同　第一二九號	同盟罷業ニ至ラサル爭議ニ關スル件
同　九年十月十一日	同　第六四號	勞働爭議ニ伴フ犯罪調ニ關スル件
同　十年八月二十四日	同　第九五號	常時使用職工五百人以上ヲ有スル工場鑛山等調ニ關スル件
同　十年十月十四日	警保發第一一五號	工場委員制度調ニ關スル件

（第一號樣式）（用紙美樣紙）

事業主團體名簿

名稱	事務所々在地	支部 名稱	支部 所在地	支部 設立年月日	創立年月日	地域別	職業又ハ產業別	維持方法
……組合又ハ會（何組合何支部）	何市（郡）町（村）番地				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			
	年　月　日變更				年　月　日改稱			

廳府縣名
月　日報

趣旨又ハ綱領（會則規約等ハ別途添付ノコト）	團體ノ員業種及其ノ員數
	何人（鐵工業者 人／造船業者 人／印刷業者 人）（以上年月日現在）
事業ノ種類	

團體ノ勢力
首長ノ住所氏名職業生年月及略歷

關係者中主ナル者ノ住所・氏名職業生年月及略歷

行動

行	動

記載例

一、支部多數ニシテ記載スルコト能ハサルトキハ其ノ主ナルモノヲ記載シ其ノ他ノ分ハ數ノミヲ記載スルニ止ムルコト

一　地域別ハ團體員ノ範圍ヲ標準トスルコト

一　「職業又ハ産業別」中

（一）「職業別」ニハ大正九年十二月二十四日内閣訓令第一號ノ小分類ニ依ル職業ヲ同フスルヲ以テ組織スルモノ例ヘハ鑄物業者ヲ以テ組織スル「鑄物業組合」造船業者ヲ以テ組織スル「造船業組合」ノ如キモノヲ記載スルコト

（二）「産業別」ニハ前號訓令ニ依ル職業ヲ異ニスルモノヲ以テ組織スルモノ例ヘハ鑄物業者、造船業者ヲ以テ組織スル組合ノ如キモノヲ記載スルコト

（三）（一）及（二）ニ屬セサル團體アルトキハ「職業又ハ産業別」ニ具體的事實ヲ記載スルコト

一　「維持方法」ニハ會費一人何程ヲ徴シ又ハ有志ノ寄附ニ依ル等簡單ニ記載スルコト

一　「團體ノ勢力」ハ其ノ團體ノ團結力ノ強弱ハ勿論外部ニ對スル勢力ヲ可成具體的ニ記載スルコト

（第二號様式）（用紙美濃紙）

勞働團體名簿

廳府縣名

月 日報

項目	記載
名稱	……組合又ハ會（何々組合（會）ノ支部） 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱 年 月 日改稱
事務所所在地	何市（郡）町（村）番地 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更 年 月 日變更
創立年月日	
支部	名稱 所在地 設立年月日
地域別	
職業又ハ產業別	

項目	記載
團體員所屬ノ工場鑛山等ノ名稱及團體員數	何々工場 織工 人 何工 人 何々鑛山 坑夫 人 運搬夫 人 何百人 船員 人 （以上 年 月 日現在）
會計經理	
基金	
一ヶ月間ノ收入概要	
同上支出ノ概要	
維持方法	

趣旨又ハ綱領（會則）ノコト	
規約會則	
別途添付ノコト	
宣言等ハ	
事業ノ種類	

機關新聞・雜誌	
題名	
發行期日	
一回ノ發行部數	
一部ノ定價	

團體ノ勢力

主ナル役員ノ	住所	氏名	生年	月職業略	歷

行	動
一（團體員教養ノ目的ヲ以テ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ何某ヲ講師トシ勞働講習會ヲ開催出席者幹部又ハ平會員何名）	
一（何年何月所屬工場又ハ鑛山ニ對シ賃金値上外何項ノ要求ヲ提出シ役員何某實行委員ト爲リ其ノ全部又ハ一部ヲ要求セシム）	
一（何年何月何日ヨリ組合員ノ據出ニ依リ又ハ組合員ノミヲ以テ株式會社ヲ組織シ印刷業ヲ直營ス）	
一（何年何月何日大會又ハ幹部會ヲ開キ勞働運動上其ノ他ニ付何々ノ決議ヲ爲ス）	

行	動

記載例

一　「支部」、「地域別」、「團體ノ勢力」ハ事業主團體ノ記載例ニ準スルコト

一　「職業又ハ産業別」中

（一）「職業別」ニハ大正九年十二月二十四日内閣訓令第一號ノ小分類ニ依ル職業ヲ同フスルモノヲ以テ組織スルモノ例ヘハ鍛冶工ヲ以テ組織スル「鍛冶工組合」鑄物工ヲ以テ組織スル「鑄物工組合」造船工ヲ以テ組織スル「造船工組合」ノ如キモノヲ記載スルコト

（二）「産業別」ニハ前號訓令ニ依ル職業ヲ異ニスルモノヲ以テ組織スルモノ例ヘハ鍛冶工、鑄物工、造船工ヲ以テ組織スル組合ノ如キモノヲ記載スルコト

（三）右（一）及（二）ニ屬セサル團體アルトキ職業又ハ産業別ニ具體的事實ヲ記載スルコト

（第三號樣式）（用紙美濃紙）

（勞働）團體（聯合）會名簿
（事業主）（同盟）

何々組合聯合（同盟）會（……支部）

名稱	事務所所在地	支部 名稱	支部 所在地	支部 設立年月日	創立年月日	地域別	職業又ハ産業別
何市（郡）町（村）番地					年月日改稱		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		
年月日改稱	年月日變更				年月日變更		

廳府縣名

月日報

聯合（同盟）	何千人（何々組合 何々組合 何々組合）（以上 年 月 日現在）
會員數及加盟團體名	
會計經理	
基金	
一ヶ月間ノ收入概算	
同上支出ノ概要	
維持方法	

趣旨又ハ綱領（會則規約宣言等ハ別途添付ノコト）	
機關新聞雜誌	
題名	
發行期日	
一回ノ發行部數	
一部ノ定價	
事業ノ種類	
團體ノ勢力	

主ナルル役	員ノ	住所	氏名	生年	月職	業略	歷

行	動

行動

記載例

一　事業主團體ノ聯合（同盟）會ハ事業主團體名簿ノ勞働團體ノ聯合（同盟）會ハ勞働團體名簿ノ記載例ニ準スルコト

（第四號樣式）ノ一

名稱	創立年月日	會員種類總數	趣旨又ハ綱領

事務所所在地	維持方法	支部分會	主幹者ノ住所氏名年齡略歷

事業竝行動
關係者中主ナル者ノ住所氏名年齡及略歷

（第四號樣式）ノ二（用紙美濃紙）

勞働團體數調（其ノ一）

廳府縣名
月日報

職業產業別			職業	產業	合計
團體數					
團體員數					
團體ノ內譯	目的	共濟ヲ主トスルモノ			
		修養ヲ主トスルモノ			
		其ノ他			
	創立年次	明治四十四年前			
		大正元年			
		大正二年			
		大正三年			
		大正四年			
		大正五年			
		大正六年			
		大正七年			
		大正八年			
		大正九年			
		大正十年			
		大正十一年			
		計			

（第五號樣式）（用紙美濃紙）

勞働團體數調（其ノ二）

廳府縣名

月日報

職業	十五人未滿	五十人未滿	百人未滿	三百人未滿	五百人未滿	七百人未滿	千人未滿	三千人未滿	五千人未滿	七千人未滿	一萬人未滿	二萬人以上	計
產業別													
職業													
產業													
計													

◎本表ノ團體數ハ第四號表ノ總數ト符合スルヲ要ス

（第六號樣式）（用紙美濃紙）

勞働爭議（同盟罷業）（同盟怠業）（同盟罷業又ハ同盟怠業ニ至ラサルモノ）

發生報告

廳府縣名

月日報

爭議發生地名			爭議發生年月日	
最近五ヶ年間ニ於ケル當該工場鑛山等ノ勞働爭議發生度數	年次	度數	勞働者總數	爭議參加人員
工場鑛山等名稱及所在地	名稱	所在地	男	
			女	
			計	
要求事項				

爭議發生ノ動機又ハ誘因			
當該工場、鑛山等ニ於ケル勞働團體ノ名稱及團體員數	名稱	團體員數	同上團體ノ爭議關與狀況
當該工場、鑛山等以外ニ於ケル勞働團體關與ノ狀況			
資本金			資本主ノ收益
經營者			
生產品ノ種類			注文品ノ種類及其金額

記載例

一「資本金」ハ株式組織ニ在リテハ公稱資本ヲ其他ニ在リテハ投資額ヲ記載スルコト

一「經營者」ハ法人ニ在リテハ其名稱及代表者氏名ヲ其他ニ在リテハ主ナル經營者ノ氏名ヲ記載スルコト

一「資本主ノ收益」ハ株式組織ニ在リテハ最近ノ配當率ヲ其他ニ在リテハ最近事業年度ノ純益額ヲ記載スルコト

一「生產品ノ種類」及「注文品ノ種類及其ノ金額」ハ生產品及注文品ノ種類多數ナルトキハ其主ナルモノヲ記載スルニ止ムルコト

一本表中急速ニ調査記入スルコト能ハサルモノアリタルトキハ其ノ旨ヲ附記シ爾後調査次第追報スルコト

（第七號樣式）

勞働爭議（甲類）報告表

爭議發生ノ場所			
工場鑛山等ノ名稱			
事業主名（法人ニアリテハ代表者）			
事業ノ種類			
全爭議期間	年月日	爭議發生	年月日
		爭議終結	年月日
當該工場鑛山等ニ於ケル使用勞働者總數		男	勞働組合員
			非勞働組合員
		女	勞働組合員
			非勞働組合員
		計	勞働組合員
			非勞働組合員
同上作業別爭議參加人員數		計	
資本金	公稱額		
	拂込額		
企業系統			
前期ノ損益狀況			
工場閉鎖期間	自年月日 至年月日	日間	
同盟罷業期間	自年月日 至年月日	日間	
同盟怠業期間	自年月日 至年月日	日間	

年月日報告

廳府縣名

要求事項	解決條件

要求事項・解決條件ニ對應スヘキ爭議發生當時ノ勞働條件

爭議發生ヲ見ルニ至リシ事情ノ概要	
事業主ノ加盟スル事業主團體名竝應援狀況	
爭議參加者ノ加盟スル勞働組合竝ニ其ノ所屬組合系統	
應援勞働組合名竝ニ其ノ所屬組合系統	
調停者ノ種別竝調停ノ成否	

事業主側	爭議ニ基ク損害	業務上ノ損害	圓
		爭議ノ失費	圓
		解雇者ニ對スル諸給與金	圓
		罷業者ニ對スル諸給與金	圓
		計	圓
勞働者側	爭議關係解雇者數	男（女）　名	
	爭議費用	事務所竝賄費	圓
		演說會、印刷物其他宣傳費	圓
		交通通信費	圓
		應援者ニ對スル諸費	圓
		其ノ他雜費	圓
		計	圓
	爭議費用調達ノ內容	各人據出額	圓
		組合員擔額本部補給額	圓
		寄附金額	圓
		行商利益金	圓
		消費組合其ノ他ヨリ借入金等	圓
		計	圓
損失作業日數	罷業者又ハ被閉鎖者ノ損失作業延日數	累計	日
	右ノ外罷業又ハ工場閉鎖ノタメ作業シ得サリシ者ノ作業損失延日數	累計	日
	計		日
受シクヘカリシ賃金額	罷業者又ハ被閉鎖者ノ受クヘカリシ賃銀	計	圓
	右ノ外罷業又ハ工場閉鎖ニ依リ作業シ得サリシ者ノ受クヘカリシ賃金	計	圓
	計		圓
備考			

注意
一　備考欄ニハ左ノ事項ヲ記載スルコト
一　犯罪檢擧ノ有無
二　當該工場鑛山內ニ數箇ノ組合存在スル場合ハ各其ノ名稱、各所屬組合員數（男女別）所屬系統、對爭議態度

（第八號樣式）（用紙美濃紙）

同盟（罷業）（怠業）ニ關スル參考表

廳府縣名
月日報

摘要別 ＼ 爭議發生竝ニ比較工場鑛山別	同盟罷業（怠業）發生ノ工場鑛山等ノ名稱	比較工場鑛山等ノ名稱
業種		
資本主ノ收益		

摘要別 ＼ 年齡別	十五才未滿者	十五才以上者	十五才未滿者	十五才以上者
勞働者日賃金 最高	男 女	男 女	男 女	男 女
勞働者日賃金 最低	同 同	同 同	同 同	同 同
勞働者日賃金 平均	同 同	同 同	同 同	同 同
勞働者一人ニ對スル補給	同 同	同 同	同 同	同 同
勞働者一人ニ對スル手當額	同 同	同 同	同 同	同 同

一日勞働時間	男	女	男	女
	自午前 時 至午後 時 何時間	自午前 時 至午後 時 何時間	自午前 時 至午後 時 何時間	自午前 時 至午後 時 何時間
時間外ノ勤務時間	男	女	男	女
時間外勤務ニ對スル割增賃金	男	女	男	女
一日中ノ休憩時間				
一ヶ月ノ公休日數				
勞働者ニ對スル設備ノ概要				
平素資本主又ハ監督者ニ對スル一般勞働者ノ感想				

當該工場鑛山等勞働者ノ勤續日數	同上勞働者配偶者ノ有無		同上勞働者ノ教育程度	
	有	無		
一ケ月未滿			義務教育ヲ終ヘサヽタルモノ	
三ケ月未滿				
六ケ月未滿			義務教育ヲ終ヘタルモノ	
一ケ年未滿				
三ケ年未滿			中等教育ヲ終ヘサヽタルモノ	
五ケ年未滿				
七ケ年未滿			中等教育ヲ終ヘタルモノ	
十ケ年未滿				
十五ケ年未滿			高等教育ヲ受ケタルモノ	
二十ケ年未滿				
二十ケ年以上			計	
計				

記載例

一 比較工場鑛山等ハ管内ニ於ケル同種事業中經營ノ規模其他罷業(怠業)發生工場鑛山等ニ最モ近似セルモノニ就キ之ヲ調査シ若シ管内ニ同種工場鑛山等ナキトキハ罷業(怠業)發生ノ工場鑛山等ト地域ノ最モ接近シタルモノノ若クハ管内工場鑛山等ト類似セルモノノ内比較ノ妥當ト認メラルル工場鑛山等ニ就キ調査スルコト

一 「資本主ノ收益」ハ第六號樣式ノ記載例ニ準スルコト

一 「勞働者賃金(日給)」ハ當該工場鑛山等ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ就キ勞働ニ從事スルモノ及直接ニ其ノ業務ヲ助成スル爲メ勞働ニ從事スルモノノ全般ニ亙リ調査記載シ「勞働者賃金ノ平均」ハ如上範圍内ニ於ケル全勞働者ノ平均額ヲ記載スルコト

一 「勞働者一人ニ對スル補給」ハ當該工場鑛山等ノ經營者カ其ノ勞働者ニ對シ米麥其他ノ物品ヲ補給スル場合ニハ之ヲ換算シ其ノ月額ヲ算出記載スルコト

一 「勞働者ニ對スル設備」又ハ「資本主又ハ監督者ニ對スル勞働者ノ感想」ハ罷業(怠業)カ右等ニ基因スルモノノ外力メテ簡單ニ記載スルコト

一 「勤續年數」「教育程度」調ノ數ハ第七號樣式ノ勞働者總數ト符合スルコトヲ要スルコト

一 「勞働者ノ教育程度」ハ當該工場鑛山等ニ於テ調査シタルモノアルトキニ限リ之ヲ記載スルコト

（第九號樣式）（用紙美濃紙）

勞働爭議（乙類）報告表

年月日報告

廳府縣名

爭議發生ノ場所竝工場鑛山等ノ名稱	事業ノ種類	事業主名	當該工場鑛山等ニ於ケル使用勞働者總數及爭議參加人員數	發生年月日	終結年月日	爭議發生ヲ見ルニ至リシ事情ノ概要	要求事項	解決條件	要求事項解決條件ニ對應スヘキ爭議發生當時ノ勞働條件	調停者ノ種別竝其ノ成否	爭議關係解雇者數及之ニ對スル諸給與金	爭議參加者所屬勞働組合竝應援勞働組合名及其所屬組合系統	犯罪檢擧ノ有無
			總人員 男										
			總人員 女										
			總人員 計										
			參加人員 男										
			參加人員 女										
			參加人員 計										
			總人員 男										
			總人員 女										
			總人員 計										
			參加人員 男										
			參加人員 女										
			參加人員 計										

注意 一 總人員參加人員中ノ勞働組合員數ハ（ ）ヲ附シテ內書スルコト

（第十號樣式）（用紙美濃紙）

勞働爭議ニ關スル犯罪檢擧調（何月分）

年月日報告

廳府縣名

爭議發生ノ工場鑛山等ノ名稱及所在地	檢擧月日	爭議ノ始終期	犯罪ノ日時及場所	犯罪事實ノ概要	罪名及適用法條	檢擧人員	處分ノ結果

注意 一 本表ハ即決處分ニ付シタルモノ及檢事ニ事件ヲ送致シタルモノニ付調査スルコト

二 本表ハ檢擧事件各一件ヲ一欄ニ記載スルコト

三 檢擧人員中女アルトキハ（ ）ヲ附シテ內書スルコト

四 處分未決ナルモノハ其ノ旨朱書シ爾後處分確定ノ都度追報スルコト

五 檢擧人員中爭議發生ノ工場鑛山等ニ於ケル雇傭勞働者以外ノモノアリタルトキハ（ ）ヲ附シテ其ノ人員數ヲ內書スルコト

（第十一樣式）（用紙美濃紙）

勞働爭議ニ關スル犯罪檢擧者勤續年數調（何年何月分）

廳府縣名

月日報

勞働年月別 / 工場鑛山名	勤續年月數							
	一月未滿	三月未滿	六月未滿	一年未滿	三年未滿	五年未滿	七年未滿	十年未滿	十年以上	計
計										

（第十二號樣式）（用紙美濃紙）

工場鑛山等勞働者數調（何年何月末現在）

廳府縣名

年月日報

種別			公營			民營			通計
性別	官營		法適用	法非適用	計	法適用	法非適用	計	
工場勞働者	男								
	女								
	計								
鑛山勞働者	男								
	女								
	計								
運輸交通	男								
通信勞働者	女								
	計								
日傭勞働者	男								

其ノ他			總計		
女	計		男	女	計

注意 日傭勞働者其ノ他ノ「其ノ他」トハ筋肉勞働者ニシテ勞働賃銀ニヨリ生存スルモノヲ指ス

（第十三號様式）（用紙美濃紙）

事業 休止 廢止 縮少 其他 ニ因リ勞働者解雇狀況報告

年 月 日報告

廳府縣名

工場鑛山等ノ名稱	公稱資本金	事業主名	解雇事由	使用勞働者數			被解雇勞働者數			休業勞働者數			休業勞働者ニ對スル給與其ノ他ノ措置
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	

所在地	事業ノ種類	事由發生年月日	解雇年月日	本件ニ伴フ爭議發生年月日	被解雇勞働者ニ對スル給與其ノ他ノ措置	
					豫告手當解雇手當	
					旅費	
					規約共濟積立其ノ他ニヨリ支給シタル額	
					其ノ他ノ措置	

被解雇勞働者ノ歸趨狀況									

（第十四號樣式）（用紙美濃紙）

事業復活ニ關スル狀況報告

工場鑛山等ノ名稱	所在地	經營者	業種	休廢縮少ノ別及其年月日	復活年月日	復活ノ程度	復活ノ事由

廳府縣名

年月日報

被解雇勞働者ニ對スル措置	休業勞働者ニ對スル措置

記載例

一　「經營者」ハ第六號樣式ノ記載例ニ準スルコト

二　被解雇又ハ休業勞働者ニ對スル措置欄ニハ復活後之等ノ者ノ全部又ハ幾部ヲ復職セシメタルヤ否若シ幾部復職セシメタル場合ハ其ノ員數竝前賃銀トノ差異其ノ他ヲ可成詳細ニ記載スルコト

（第十五號樣式）（用紙美濃紙）

常時使用勞働者五百人以上ヲ有スル工場鑛山等調（何年何月末現在）　年　月　日報告

廳府縣名

工場鑛山等ノ名稱	所在地	事業主名	事業ノ種類	公稱資本金	勞働者數			賃銀（日給）		當該工場鑛山等ニ於ケル勞働總合名
					男	女	計	最高	最低	平均

注意　一　賃銀ノ最高、最低ハ實收額ニ付揭記シ其ノ平均ハ勞働者總數ヲ以テ現實支拂賃銀總額ヲ除シタルモノタルコト

二　本表ニハ工場、鑛山運輸交通通信瓦斯電氣事業等ヘテノ事業ニツキ洩レナク揭記スルコト

（第十六號樣式）（用紙美濃紙）

勞働委員制度調

廳府縣名

年月日報

名稱		
所在地		
實施年月日		
實施ノ動機		
目的		
組織		
工場鑛山等ノ所在地及名稱	所在地	
	名稱	
經營者		
業種		
勞働者總數	男	
	女	
	計	
開會度數		
權限及協議事項		

委員ノ選定方法	
實施後ノ狀況	
委員ノ選舉被選舉資格	

記載例

一「經營者」ハ第六號樣式ノ記載例ニ準スルコト

職業分類

（大分類）	（中分類）	（小分類）
一、農業	一、農耕、畜産、蠶業	一、農作
		二、園藝、造圖
		三、牧畜、搾乳、養禽
		四、養蠶、蠶種製造
		五、其他ノ農業
	二、林業	六、森林業
		七、林産物業
		八、狩獵
二、水産業	三、漁業、製鹽業	九、漁撈、採藻
		一〇、魚介藻養殖
		一一、製鹽
		一二、其他ノ水産業
三、鑛業	四、採鑛、冶金業	一三、金屬鑛業
		一四、石炭鑛業
		一五、石油鑛業
		一六、其他ノ鑛業
		一七、土石採取業
		一八、セメント、石膏、石灰類製造
		一九、瓦、土管製造
		二〇、煉瓦製造
		二一、陶磁器、土器製造
		二二、七寶燒、琺瑯品製造
		二三、硝子、硝子品製造
		二四、其他ノ窯業
		二五、精錬業
		二六、金屬壓延業
		二七、釘、鋲、針類製造
		二八、鐵葉職、鐵葉品製造
		二九、鋼索、鐵鎖等製造、針金細工
		三〇、鍛冶業
四、工業	五、土石採取業	
	六、窯業	
	七、金屬工業	

八、機械器具製造業

九、化學工業

三一、鑄物業
三二、銅器、眞鍮器、青銅器類製造
三三、其他ノ金屬工業
三四、度量衡器、計測器、科學的機械器具類製造
三五、時計製造
三六、電動機、電氣機械器具製造
三七、原動機製造(汽鑵、瓦斯發生機等ヲ含ム)
三八、銃砲、彈丸、水雷製造
三九、紡織機械器具製造
四〇、農具、土工具製造
四一、機關車、車輛製造
四二、造船業
四三、金屬工用、木工用機械器具製造
四四、航空機製造
四五、其他ノ機械器具製造
四六、工業藥品、瓦斯藥品製造

一〇、纖維工業

四七、賣業、賣藥類似品製造
四八、染料、顏料及其原料類製造
四九、石鹼製造
五〇、化粧品類製造
五一、燐寸、附木製造
五二、火藥、其他ノ爆發物製造
五三、油脂類製造
五四、蠟、蠟燭製造
五五、護謨、セルロイド、防水品製造
五六、漆、其他ノ塗料製造
五七、肥料製造
五八、化學分析、檢査ニ關スル業
五九、其他ノ化學工業
六〇、生絲製造
六一、人造絹絲製造
六二、撚絲製造

一一、紙工業

六三、眞綿、ベニー製造
六四、綿製造
六五、綿絲紡績業
六六、其他ノ紡績業
六七、織物業
六八、毛織物業
六九、莫大小、莢大小品製造
七〇、編物、組物製造
七一、綱繩、綱類製造（藁製品ヲ除ク）
七二、麻絲維、絲返業
七三、染色、捺染、漂白及絲布加工業
七四、湯熨斗、浸拔、洗張、洗濯業
七五、西洋洗濯業
七六、紙製造
七七、板紙、壁紙製造
七八、パルプ及其他ノ紙料製造

一二、皮革、骨、角、甲、羽毛品類製造業

一三、木、竹類ニ關スル製造業

七九、紙品製造
八〇、裱具師
八一、皮革製造
八二、皮革品、擬革、擬革品製造
八三、骨、角、甲、牙、貝類ノ細工
八四、刷毛類、其他ノ羽毛品製造
八五、製材業
八六、木挽、屋根板製造
八七、刳物、木地、曲物製造
八八、樽、桶製類造
八九、建具、指物、木型、寄木、合板製造
九〇、漆器製造
九一、笊、籠、行李類製造
九二、疊表、莫蓙類製造
九三、疊職
九四、藁、麥稈、棕梠、經木細工

一四、飲食料品、嗜好品製造業

九五、其他ノ竹木草蔓品製造
九六、精穀、製粉業
九七、麵類、麩、湯葉、蒟蒻製造
九八、豆腐製造
九九、菓子、麵麭製造
一〇〇、砂糖類製造
一〇一、麹製造
一〇二、清酒製造
一〇三、參酒製造
一〇四、其他ノ酒類製造
一〇五、味噌、醬油製造
一〇六、屠畜、肉類品製造
一〇七、罐詰、壜詰製造
一〇八、鹽乾魚介節類製造
一〇九、海藻、其他水產食料品製造
一一〇、清涼飲料製造

一五、被服、身ノ廻リ品製造業

一一一、製茶業
一一二、煙草製造
一一三、製氷及冷藏業
一一四、其他ノ飲食料品製造
一一五、和服裁縫
一一六、洋服裁縫
一一七、帽子製造
一一八、シヤツ、手套、股引、脚絆、足袋類製造
一一九、袋物製造
一二〇、扇子、團扇、提燈、傘、合羽類製造
一二一、洋傘、杖類製造
一二二、履物類製造
一二三、靴製造
一二四、其他ノ身ノ廻リ品製造

一六、土木建築業

一二五、土木建築請負業
一二六、土木建築ノ設計、測量等ニ關スル業
一二七、大工

一七、製版、印刷、製本業
一八、學藝、娯樂、裝飾品製造業

一二八、左官、泥工、セメント工、煉瓦職
一二九、石工
一三〇、屋根職
一三一、ペンキ、漆、其他ノ塗料塗職
一三二、土方、鳶職
一三三、浮水業
一三四、其他ノ土木建築ニ關スル業
一三五、木版、金屬版、石版、其他ノ製版、印刷業
一三六、活字製造、活版印刷業
一三七、製本職
一三八、筆、墨製造
一三九、ペン、鉛筆、インキノ類製造
一四〇、其他ノ文房具製造
一四一、樂器製造
一四二、博物標本、模型、運動用具、遊戯品、玩具製造

五、商業

一九、瓦斯、電氣及天然力利用ニ關スル業
二〇、其他ノ工業
二一、物品販賣業

一四三、造花、押繪、刺繍、其他ノ裝飾品製造
一四四、貴金屬、寶石、飾石細工
一四五、瓦斯發生、供給、其裝置業
一四六、電力發生、供給、其裝置業
一四七、其他ノ天然力利用ニ關スル業
一四八、其他ノ工業
一四九、穀類、紛類販賣
一五〇、蔬菜、果物類販賣
一五一、魚介藻類販賣
一五二、鳥獸肉類販賣
一五三、酒類、調味料、清涼飲料販賣
一五四、菓子、麺麭類販賣
一五五、茶販賣
一五六、其他ノ飲食料品販賣
一五七、肥料販賣
一五八、燃料販賣

一五九、木材、竹材販賣
一六〇、石材、其他ノ建築材料販賣
一六一、建具、家具、指物類販賣
一六二、疊、莚、茣蓙類販賣
一六三、陶磁器、硝子、硝子品類販賣
一六四、地金、金屬器具販賣
一六五、機械、車輛、農具類販賣
一六六、皮革、擬革、其製品販賣
一六七、織物、被服類販賣
一六八、綿、絲類、編物、組物類販賣
一六九、紙、紙製品、文房具、玩具、遊戲品販賣
一七〇、圖書、新聞、雜誌、其他ノ出版物ノ發行、販賣
一七一、小間物、唐物、履物、雨具、雜貨販賣
一七二、藥品、染料、顏料、香料等販賣
一七三、度量衡、科學的機械器具、時計、貴金屬

二二、媒介周旋業
二三、金融保險業
二四、物品賃貸業、預リ業

寶石販賣類
一七四、外國貿易商
一七五、古物商
一七六、葬具商
一七七、其他ノ物品販賣
一七八、賣買媒介業
一七九、周旋業
一八〇、興信業
一八一、銀行業
一八二、質屋業
一八三、貸金業
一八四、其他ノ金融業
一八五、生命保險業
一八六、其他ノ保險業
一八七、物品賃貸業
一八八、倉庫業、其他ノ物品預リ業

六、交通業

七、公務、自由業

一八九、旅人宿、下宿業
一九〇、料理店、飲食店、席貸業
一九一、遊戯、興行ニ關スル業
一九二、理髪業、理容業
一九三、浴場業
一九四、其他ノ商業
一九五、郵便、電信、電話業
一九六、鐵道業
一九七、軌道業
一九八、人力車業
一九九、乘用ノ自働車、馬車業
二〇〇、其他ノ車馬運輸業
二〇一、船舶運輸業
二〇二、運輸取扱業
二〇三、其他ノ運輸ニ關スル業
二〇四、陸軍現役軍人
二〇五、海軍現役軍人

二五、旅宿、飲食店、浴場業等
二六、其他ノ商業
二七、通信業
二八、運輸業
二九、陸海軍人

三〇、官吏、公吏、雇傭
三一、宗教ニ關スル業
三二、教育ニ關スル業
三三、醫務ニ關スル業

二〇六、神官、神職、雇傭
二〇七、宮內官吏、雇傭
二〇八、官吏、雇傭
二〇九、公吏、雇傭
二一〇、神道ニ關スル業
二一一、佛教ニ關スル業
二一二、基督教ニ關スル業
二一三、其他ノ宗教ニ關スル業
二一四、學校ニ勤務スル者
二一五、圖書館、博物館、動物植物園等ニ勤務スル者
二一六、其他ノ教育ニ關スル業
二一七、醫業
二一八、齒科醫業
二一九、調劑業
二二〇、産婆業
二二一、看護業

三四、法務ニ關スル業
三五、記者、著述者
三六、藝術家

二二二、按摩、鍼灸業
二二三、其他ノ醫療ニ關スル業
二二四、獸醫業
二二五、蹄鐵業
二二六、裁判所ニ勤務スル者
二二七、辯護士業、特許辨理士業
二二八、執達吏業
二二九、公證人業
二三〇、新聞、雜誌、通信記者
二三一、著述者
二三二、文藝家
二三三、畫家、彫刻家
二三四、音樂家
二三五、師範業
二三六、寫眞業
二三七、其他ノ藝術ニ關スル業

八、其他ノ有業者
九、家事使用人
一〇、無職業

三七、其他ノ自由業
三八、其他ノ有業者
三九、家事使用人
四〇、收入ニ依ル者
四一、無職業

二三八、技藝、娛樂ニ關スル業
二三九、學術、慈善、政治、社交、其他ノ團體ノ事務ニ從事スル者
二四〇、代書業
二四一、其他ノ自由業
二四二、日傭業
二四三、其他ノ有業者
二四四、家事使用人
二四五、小作料ニ依ル者
二四六、地代、家賃、有價證券ノ收入ニ依ル者
二四七、恩給、年金、其他ノ收入ニ依ル者
二四八、準世帶ニ在ル學生、生徒
二四九、精神病院、感化院、慈善病院等ニ在ル者
二五〇、官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者
二五一、在監人
二五二、其他ノ無職者

●勞働團體及事業主團體名簿異動報告ニ關スル件

（大正十四年四月六日）
（特內示甲第二號）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

勞働團體及事業主團體名簿記載事項ノ異動ニ關シテハ大正十一年二月二日附特內示甲第二號勞働問題ニ關スル件內示ノ次第ニシテ其第二項名簿及其添付書類中趣旨綱領、會則、名稱、事務所、主ナル役員其他著シキ異動ハ其都度御報告相成居候處第二項末尾ニ記載スル毎年六月十二月末現在ニテ報告セラルヘキ其他ノ異動ハ大體左記事項ヲ包含スルモノト御了知相成度

記

一　團體員數
二　基本金及會計狀態（收入收支）
三　機關紙ノ發行部數
四　團體勢力ノ消長
五　重ナル行動（未タ別ニ報告ナカリシモノ）

●勞働運動指導者名簿ニ關スル件

（大正十五年九月二十三日）
（勞發第二九八號）

社會局勞務部長ヨリ知事宛

大正十三年二月八日附社一發第二一號勞働運動指導者名簿作製送附方ノ件中別表樣式左ノ通リ改正候條爾今右ニ依リ御取扱相成度

（用紙美濃紙）

勞働運動指導者名簿

大正　年　月　日報

廳府縣名

別名	氏名	生年月日	本籍	現住所	本人所屬勞働（小作人）團體名及本人ノ地位	略歷 學位	略歷 職業其ノ他	資產收入

思想傾向	勢力	主要ナル行動	交際者ノ氏名

●勞働團體小作人團體ノ事業狀況報告ニ關スル件

（大正十五年十一月十九日
特內示甲發第八號）

其署部內ニ組織スル勞働團體小作人團體ノ各種事業ニ關シテハ爾今左記要領ニ據リ毎年十二月末現在ヲ以テ既往一ケ年ノ狀況ヲ取纏メ翌年一月十日迄ニ報告セラルヘシ
尙ホ事業ノ創設廢止其他著シキ變化ヲ生シタル場合ハ其ノ都度即報ノコト

記

勞働團體、小作人團體事業報告要領

事業ノ種類	記載要領
消費組合	名稱、創立年月日、加入人員、資本金 事業ノ狀況
共濟 （日用品ノ購買、販賣事業ヲ含ム）	事業開始ノ年月日、組織ノ大機、事業ノ狀況
教育	方法（勞働學校、農民學校、其ノ他常置的ノ施設ニ付テハ其ノ名稱及創立年月日ヲ附記スルコト） 事業ノ狀況
出版	出版物ノ種類、名稱、部數
其ノ他	名稱、方法 事業ノ狀況

勞働宿泊所

交際ノ氏名	主要ナル行動	勢力	思想・傾向

●勞働團體小作人團體ノ事業狀況報告ニ關スル件

（大正十五年十一月十九日
特內示甲發第八號）

其署部內ニ組織スル勞働團體小作人團體ノ各種事業ニ關シテハ爾今左記要領ニ據リ每年十二月末現在ヲ以テ既往一ケ年ノ狀況ヲ取纏メ翌年一月十日迄ニ報告セラルヘシ
尙ホ事業ノ創設廢止其他著シキ變化ヲ生シタル場合ハ其ノ都度即報ノコト

記

勞働團體、小作人團體事業報告要領

事業ノ種類	記載要領
消費組合（日用品ノ購買、販賣事業ヲ含ム）	名稱、創立年月日、加入人員、資本金 事業ノ狀況
共濟	事業開始ノ年月日、組織ノ大槪、事業ノ狀況
敎育	方法（勞働學校、農民學校、其ノ他常置的ノ施設ニ付テハ其ノ名稱及創立年月日ヲ附記スルコト） 事業ノ狀況
出版	出版物ノ種類、名稱、部數
其ノ他	名稱、方法 事業ノ狀況

勞働宿泊所

人事法律相談
娯　　樂
營利事業
各種ノ調査
其ノ他著シキモノ

○注意　本報告ハ各團體毎ニ別記スルコト

●勞働爭議調停ニ關スル報告方ノ件

（昭和二年五月七日　特內示甲發第二號）

警察部長ヨリ各警察署長宛

勞働爭議調停（調停法ニ依ラサル調停）ニ關スル報告ハ從來區々ニ亙リ居リ處理上不便ニ付キ將來ハ調停ノ結果ニ付キ別紙樣式ニ依リ其ノ都度報告可相成此段及內示候也

勞働爭議調停（調停法ニ依ラサル）調者表　　月分

工場鑛山名竝ニ其ノ所在地			
事業種類			
全爭議期間	自　年　月　日 至　年　月　日　日間	同盟罷業 同盟怠業 工場閉鎖 期間	自　年　月　日 至　年　月　日　日間
使用勞働者總數	男（　） 女（　） 計（　）	爭議參加者數	男（　） 女（　） 計（　）
事業主ノ加盟スル事業主團體名竝應援ノ有無		爭議參加者所屬勞働組合及應援勞働組合名竝其ノ組合系統	
爭議發生ヲ見ルニ至リシ事情ノ概要			

調停者ノ職業氏名		調停開始年月日	
調停申立者ノ有無及其ノ種別		調停ノ成否及其ノ年月日	
要求事項		調停條件（解決條件）	
調停ノ結果カ關係勞働者ノ勞働條件ニ及ホシタル影響		調停ノ結果ニ對スル當事者、當事者以外ノ勞働者事業主其他第三者ノ感想	

表中括弧內ハ數中勞働組合員數ヲ內書スルコト

第四章　雜

●市長名簿報告ノ件

（大正十四年二月十八日內示甲第二號）

市長就任ノ場合ハ別表ニ依リ名簿作成五日以內ニ報告尙異動ヲ生シタル場合ハ其都度報告セラルヘシ

市長名簿　　年　月　日　府縣名

市名	原籍住所	所屬黨派	（勳記等）氏名	年齡	任期	經歷大要	備考

報告例及記載例

一　本報告ハ將來廢止セラルル迄異動アリタル都度報告スルコト

一　備考欄ニハ市會及市民ノ信不信其他參考トナルヘキ事項ヲ記入スルコト

一　（本表ハ大正十三年五月十日警保發甲第二〇號ノ通牒ニヨル）

●町村長助役收入役名簿作成方ノ件（大正十四年三月二十五日 内示甲發第五號）

町村長、助役、收入役名簿ヲ別紙樣式ニ依リ（用紙ハ美濃紙ヲ用フルコト）調製四月十五日迄ニ當部ニ到達スル見込ヲ以テ報告セラルヘシ

追テ今後異動アル場合ハ認可後十日以内ニ本樣式ニ依リ報告セラルヘシ

町村長（助役）（收入役）名簿索引

丁數	町村名	氏名	丁數	町村名	氏名

備考　各別ニ索引ヲ附スルコト

町村長（助役）（收入役）名簿

（各別冊ニ作成スルコト）

本籍		身分	
出生地		職業	
住所		位勳	
黨派系統		氏名	
信望勢力		生年月日	
認可年月日		性質	
名譽又ハ有給別俸給又ハ報酬額		品行	
履歷		交際スル重ナル人名	
大要		崇拜スル人名	
		恩義アル人名	
		資産及負債	

●高等受訓簿記載方ニ關スル件

（大正五年二月十日）
（內示甲第三號）

受持巡査管掌ニ係ル高等警察受訓簿中手配視察人、朝鮮人及發賣頒布禁止出版物ニ對スル記載例左記ノ相定メ候條右ニ依リ記載セシメラルル可シ

記

特別要視察人（朝鮮人）（要視察人）ノ部

所在不明年月日	本籍又ハ住所	職業	氏名	年齢	特徴	手配解除年月日

特別要視察人、朝鮮人及要視察人ノ三部ニ分チ各口座ヲ設ケ記載スルモノトス

發賣頒布禁止出版物ノ部

發賣頒布禁止年月日	題號	記事番號	禁止事由	發行所發行者	差押又ハ發見部數

●在留外國人月報ニ關スル件

（昭和二年四月九日）
（內示甲發第四號）

在留外國人月報ハ從來保安課ニ於テ取扱ヒタルモ今回高等警察課ニ移管シタルニ付爾今機密文書取扱規定ニ準シテ取扱可相成此段及內示候也

追テ本件ハ從來其解釋區々ニ渉リタル嫌アリシモ左記ニ據ルヘキモノニ付爲念

記

在留外國人國籍別人員月報ノ件

在留外國人ニ對シ每月末現在ヲ以テ其國籍別人員調査ノ上左表ニ依リ翌月五日限リ御報告相成度

（從來使用中ノ表ニツキ省略）

備考

一　居住者欄ニハ明治三十二年內務省令第三十二號ニ依リ登錄シ有ルモノヲ計上シ滯在者欄ニハ未登錄ノモノ及一時滯在ノモノヲ計上スルコト

一　殖民地ニ屬スルモノハ其所屬本國ノ次欄ヘ括弧ヲ附シ列記スルコト

一　前月トノ增減甚シキトキハ備考トシテ其理由ヲ附記スルコト

（大正七年十一月二十五日警保局通牒）

第五編

刑事

目次

第五編　刑事

第一章　貨紙幣、證券、印紙、漉入紙

○僞造貨紙幣銀行券取締方ノ件……明三八　縣内訓　二　一
○外國流通ノ貨紙幣等僞造變造及模造ニ關スル件……明三八　法律　六六　三
○僞造變造及模造外國流通貨紙幣等官沒命令ノ件……明三八　内令　二　四
○僞造變造及模造外國流通貨紙幣等官沒命令書ノ件……明三八　縣訓令　一三　四
○通貨及證券模造取締法……明二八　法律　二八　五
○紙幣類似證券取締法……明三九　法律　五一　六
○紙幣類似證券取締ニ關スル件……大七　保　七五五〇　六
○印紙模造取締規則……大五　大令　一八　七
○漉入紙製造取締規則……明二〇　勅令　三六　七
○漉入紙製造届出ノ件……明四三　大訓　一六　七

○濾入紙製造届出ノ件……明二〇　縣令　八一　八
○濾入紙製造届書進達ノ際取締方ノ件……明三八　指示保　五　八

第二章　不良青少年少女

○不良青少年少女視察規程……大一五　縣訓甲　一九　九
○不良青少年少女視察規程改正ニ關スル件……昭二　刑　一八七七　一八

第三章　罰則

○命令ニ關スル罰則ノ件……明二三　法律　八四　一九
○閣令省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件……明二三　勅令　二〇八　一九
○從前發布シタル現行諸令中現行刑法ノ刑名又ハ罰則ヲ揭ケタル規定ニ關スル件……明四一　民刑甲　一九三　一九
○決闘罪處分法……明二二　法律　三四　二〇
○暴力行爲等處罰ニ關スル件……大一五　法律　六〇　二一
○暴力行爲處罰ニ關スル件ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行……大一五　勅令　二九九　二三

○印紙犯罪處罰法……明四二　法律　三九　二二
○再貼印紙注意ノ件……明四三　保　五一八一　二三

第四章　警察犯處罰令、即決手續

○警察犯處罰令……明四一　內令　一六　二五
○岐阜縣警察犯處罰令……明四二　縣令　五九　二八
○金錢ヲ強請スル不正ノ聚取締ノ件……大三　保刑　二八三九　三一
○強談威迫面會強請者等處罰ニ關スル件……昭二　刑親　八五　三三
○〔違警罪〕即決例……明一八　太布告　三一　三六
○〔違警罪〕即決例ニ關スル件……大五　保達　九七七〇　三六
○〔違警罪〕即決例第十條ニ依ル留置期間ノ計算ニ關スル件回答……大六　警岐　九三　三八
○〔違警罪〕即決例適用ニ關スル件……大八　保　一〇八四三　三八
○正式裁判執行ノ件ニ付通牒ノ件……大七　保　九七六一　三九
○〔違警罪〕即決年表ノ件……大四　保　二〇〇四　四〇
○〔違警罪〕即決處分ニ關スル件……大四　保　九二七三　四〇
○拘留料料即決手續……明四一　縣訓令乙　九一　四〇

○勞役場留置ノ言渡其他協議ノ件……明四一　警榮　三七ノ内　四七
○〔違警罪〕裁判言渡書ノ謄本又ハ抜書下附ノ費用ハ徵收シ其即決ニ係ルモノハ舊ニ仍ラシム……明一八　司達丙　一〇　四七
○違警罪　告發書ヲ要セス即決スヘキ件……明二〇　指示　一五六　四八
○〔違警罪〕科料金ニ關スル件……明三七　警保　六七九一　四八
○〔違警罪〕事件受託簿ノ件……明三七　指示　二　四八
○〔違警罪〕即決例ニ依ル保證金ノ取扱ニ關スル件……大一五　保刑　二六七七　四九
○刑ノ執行停止ニ關スル件……明四一　保　一八二一　五一
○拘留ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱方……明四一　保　一二〇三　五二
○少年法第十三條ト〔違警罪〕即決例ニ關スル件……大一二　保刑　二四四二　五三
○〔違警罪〕即決例中疑義ニ關スル件……明三〇　檢事正通牒　五五
○〔違警罪〕現行犯ノ郵便脚夫引致方ニ關スル件……明一五　達　二五　五六
○陸軍軍人軍屬〔違警罪〕處分例……明一九　勅令　四四　五七
○海軍軍人軍屬〔違警罪〕處分例……明二二　法律　二五　五八

第五章　裁判所構成

○裁判所構成法（抄錄）……明二三　法律　六　五九
○司法事務共助法……明四四　法律　五二　七〇
○司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件……明四四　勅令　二六八　七一
○陪審法施行準備ニ關スル件……大一五　刑　三七二六　七一

第六章　司法警察官

○司法警察職務規範……大一二　刑事一〇〇九二　七三
○司法警察執務細則……昭二　日記　二五五〇　九三
○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定……大一二　勅令　五二八　一七一
○司法警察事務取扱方改正ノ件……大一四　日記　二二二六　一七三
○刑事ニ關スル記錄作成方ノ件……大一三　日記　四〇四六　一七四
○司法警察ノ職ニ在ル者ノ證票ニ關スル件……大一三　刑事　七一六　一七四
○司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムル件……明一四　司達甲　五　一七六
○巡査警部代理トシテ司法事務ヲ取扱フトキ取扱ニ關スル件……明一六　司達丁　九　一七六

○警部代理ニ關スル件……明二六　指示　一四　一七六
○刑事課主管報告書類取扱方ノ件……大一五　刑　三八七二　一七七
○刑事警察事務協定ニ關スル件……大一〇　保親　五五〇　一七七

第七章　捜　査

○犯罪捜査規程……大一五　縣訓乙　三八九　一八三
○犯罪捜査規程改正ニ關スル件……大一五　刑　四七三三　一九七
○鐵道司法警察事務手續ニ關スル件……大一五　保刑　二二六二　一九七
○移動警察事務取扱規程……昭二　縣内訓　一　一九九
○鐵道關係犯罪事件報告ニ關スル件……昭二　刑　二五一三　二〇四
○犯罪被害及檢擧表改正ノ件……昭二　刑　一一〇四　二〇四
○重要犯罪檢擧報告ニ關スル件……昭二　刑　一八五一　二〇四
○犯罪捜査共助内規ニ關スル件……昭二　刑　一九九〇　二〇五
○鑑識資料保全ニ關スル件……大一五　刑　四〇三八　二〇七
○犯罪現場ノ保全竝ニ措置ニ關スル件……昭二　刑　二〇一二　二〇八
○警察官吏其他犯罪事件ニ關シ祕密嚴守方ノ件……大六　警親　八〇八　二一〇
○重要犯罪捜査要領竝ニ繼續捜査資料ニ關スル件……大一一　指示保　二　二一一
○犯罪個數竝檢擧個數人員表……大五　日記　一二九九　二一五
○犯罪事件簿樣式……大六　縣訓甲　三七　二一九
○犯罪事件簿記載方ノ件……大一〇　保　一四五〇　二二一
○告訴告發又ハ自首事件ノ取扱方ニ關スル件……大一三　日記　四四七六　二二三
○警察署ニ犯罪人名簿備置ノ件……明二五　指示　一二五　二二三
○警部補又ハ巡査部長派出所ニ犯罪事件受付簿備付ノ件……大一〇　保　一一七二九　二二五
○寫眞撮影規程……大一二　訓令乙　二二二　二二六
○司法警察上寫眞撮影ニ關スル件……大一五　保刑　二六六三　二三三
○指紋取扱規程……昭二　縣訓甲　三四　二三四
○指紋取扱規程改正ノ件……昭二　刑　二一五六　二四一
○指紋對照方照會ニ關スル件……大一三　保刑　一七一四　二四七
○刑事要視察人ニ關スル件……大一〇　保　六七九〇　二四七
○犯罪嫌疑者ニ對シ其ノ品性平素ノ行狀家庭ノ狀況等視察ノ件……明四一　縣訓乙　一三　二四八
○少年法實施ニ關スル件……大一二　保親　四一　二五一
○少年犯人ノ氏名チ本籍地ヘ通知セサルノ件……大一四　保刑　四四四　二五一
○身許調査ニ關スル件……大五　保　六二二五　二五二

○憲兵警察吏ニ於ケル捜査方ノ件……明三三　指示　二二　二五二
○探偵者使用不相成件……明一四　内達無號　二五三
○盜難届書様式改正ノ件……大一五　刑　三三五二　二五三
○郵便逓送人集配人犯罪逮捕ノ時取扱方ノ件……明一八　無號　二五五
○通信業務ニ關スル犯罪公表ノ件……大一〇　保親　三八一　二五五
○商票調査規程制定ニ關スル件……大一一　保　二〇一六　二五六
○商票調査規程……大一一　縣訓乙　四九　二五六
○犯人逮捕内報ニ關スル件……大一五　保刑　一四五〇　二五九

第八章　徴罪、起訴猶豫

○徴罪不檢擧ニ關スル件……明三八　通達警二〇四五　二六一
○起訴中止取扱規定……明三九　檢事正通牒　二六一
○徴罪釋放年表ノ件……大七　縣訓乙　四四　二六四
○徴罪釋放年表ニ關スル件……大九　保　三九六六　二六九
○徴罪取扱ニ關スル件……大一一　保　九一四二　二六九
○犯罪豫防竝ニ檢擧上注意方ノ件……大三　保親　九三　二六九

○起訴猶豫及刑執行猶豫中ノ陸海軍々人軍屬ナルトキ通知方ノ件……明四一　保　一八七八　二七〇
○送致事件結果表ニ關スル件……大一〇　保　七二六五　二七一
○起訴猶豫處分者ニ對スル訓戒取扱ノ件……大一〇　日記　三六九七　二七二
○起訴猶豫人取扱心得……明三八　措示警　二二　二七二
○刑ノ執行猶豫者取扱方ノ件……大元　保・　二〇三　二七五

第九章　檢視

○變死者檢視ノ際解剖方……明一〇　太布告　二二　二七七
○變死傷檢視規程……明三一　縣訓令　一五三　二七七
○變死者檢視調査ニ關スル件……大一三　保警　一六〇六　二八一
○海軍々人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ノ件……明四四　内警　四〇九　二八二
○官廳内工場等ニテ變死傷ノ者檢視處分ノ件……明一三　太達　一四　二八二
○檢視取扱方……明三二　保安課長通牒　二八三
○失火ニ對スル檢視ノ件……明二六　指示七五　二八三

第十章　豫審、公判

○檢證上囚人召連出張ノ節巡査護送ノ件……明一五　內達乙　三三　二八五
○司法官吏ヨリ巡査及兵員要求使用手續……明一四　太達　八二　二八五
○豫審判事檢事證其他急速ヲ要スル節直ニ巡査ヲ使用ス……明一四　司達丙　一五　二八五
○公庭取締被告人看護ノ爲メ巡査（押丁）使用ノ件……明一四　太達　八六　二八六
○私訴ハ公訴提起後ニ於テ受理スル件……明二五　指示　七一　二八六

第十一章　令狀

○岐阜地方裁判所檢事局管內令狀執行手續……明二七　警報　四四二　二八七
○豫審判事拘引ノ被告人留置方……明一四　太布告　五九　二八九
○府縣會議員犯罪アリタルトキ捕繩ニ關スル件……明一二　內達乙　一八　二八九
○既決囚ノ逃走者ニ對スル令狀謄部ニ於テ發付ノ件……明一五　司達丙　一四　二八九
○既決囚ノ逃走者ニ對シ逮捕狀發付手續……明一五　司達丙　六　二九〇

第十二章　護送

○囚人及刑事被告人押送規則……明三〇　勅令　四一五　二九七
○囚人及刑事被告人押送細則……明三〇　內令　三七　二九八
○囚人及刑事被告人押送手續……明三一　縣訓令　二九　三〇四
○各署間相互ニ傳遞者アリタルトキノ件……明三一　司訓　一　三〇六
○夜間囚徒送附ニ關スル件……明二六　指示　一三　三〇七
○取調ノ結果ニヨリ押送人押送方ノ件……明二六　指示　六　三〇七
○囚人及刑事被告人押送途中金品取扱方ノ件……明三二　指示　七　三〇七
○囚人及刑事被告人押送ニ關スル取扱方……明三一　保　四九三　三〇八
○囚人及刑事被告人ノ押送ノ際ニ於ケル注意方……明三四　保　二九一　三〇八
○囚人及刑事被告人送致上ノ件……明三三　內務大臣訓一二　三〇九
○囚人及刑事被告人押送ニ關スル件……明三三　指示　一〇　三〇九
○囚人及刑事被告人押送ノ件……明三六　指示保　一五　三〇九
○囚人及刑事被告人押送ノ件……明四一　指示謄　八　三一〇
○拘留ノ刑事被告人ニ對シ判決言渡アリタルトキ押送方ノ件……明三八　檢事正通牒　三一〇
○囚人及刑事被告人ヘ押送ニ關スル件……大二　指示　八　三一〇

○囚人及刑事被告人傳染病ニ罹リタルモノ送致ノ件……明二七　指示警發四六七　三一一
○刑事被告人ニ冠物ヲ使用セシムルノ件……大一一　保親　九〇　三一一
○傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱方ニ關スル件……大四　保　二三五五　三一二
○囚人及刑事被告人縣外押送ノ件……明三一　監甲　一八　三一二
○受刑者及刑事被告人護送ニ關スル件……明四五　内務省訓一七五　三一二
○軍衙間囚人及刑事被告人押送規則……明三二　勅令　四〇五　三一三
○陸軍法衙ニ送致ノ囚人刑事被告人突付方……明三一　檢訓令　五　三一五

第十三章　監獄、留置場

○監獄法……明四一　法律　二八　三一七
○監獄法施行規則……明四一　司令　一八　三二六
○罪囚名籍原簿其他諸帳簿調製ノ件……明二七　警發　一二六　三四六
○精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續……明三四　内訓　七　三五一
○囚人身分帳ニ對スル注意方……明二九　指示　三一　三五二
○乳兒携帶入監者ノ件……明三二　保　二七二七　三五二
○在監人ヨリ被告事件ニ付證明願出タルトキノ取扱方……明二四　指示　三五二

○在監人逃走ノ場合ニ於ケル報告方ノ件……明三四　監甲　三二　三五三
○拘留囚移監通知方ノ件……明四〇　通達警五一七二　三五三
○刑死者及死亡者遺骸解剖ニ關スル件……明一八　内達甲　二五　三五三
○留置人取扱規程……明三四　指示　二三　三五四
○典獄留置場巡視ノ件……明三六　司訓　二　三五八
○留置場設備標準……明三二　内務大臣訓　七六一　三五八
○拘留名籍簿設備ノ件……明三八　縣訓　七一　三五九
○警察署留置場ニ關スル件……明四一　保　六一六　三六一
○警察官署附屬ノ留置場ニ於ケル留置人取扱ニ關スル件……明四一　保　七三六　三六二
○警察官署ニ附屬スル留置場ヲ監獄ニ代用スル件……明四一　保　一二〇二　三六三
○換刑者留置日數制限……明二八　指示　四　三六四
○留置場已未決囚區畫ノ件……明二〇　指示　三七　三六四
○拘留狀ヲ執行セシ刑事被告人傳染病ナルトキ取扱方ノ件……明三八　縣訓　八七　三六四
○傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱方ニ關スル件……大四　保　二三五五　三六五
○警察官署ノ留置場海軍監獄ニ代用ノ件……明四一　内警甲二三ノ内　三六五
○警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關スル件……明四一　内警甲三九ノ内　三六六
○在監犯人取調ニ關スル手續方ノ件……大六　保　五四九七　三六七

第十四章　刑ノ執行

○收入印紙ヲ以テ違警罪科料金納付ノ件……明三八　縣令　五八　三六九
○科料納付方ノ件……明三八　縣訓令　九四　三七〇
○刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人取扱内規……明三八　警保　二〇一二　三七〇
○刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人名簿調製其他取扱心得……明三八　通達　二〇一三　三七四
○刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關シ取扱方ノ件……明四一　訓令乙　一四　三七五
○執行猶豫少年ニ關スル件……大一二　日記　一五〇八　三七八
○軍法會議ニ於テ言渡ヲ受ケタル刑執行猶豫者取扱ノ件……明四一　縣訓乙　二五　三七九
○刑法施行法實施ノ場合刑ノ執行停止ニ關シ取扱方ノ件……明四一　縣訓乙　一五　三七九

第十五章　假出獄、假出場

○假出獄取締規則……明四一　司令　二五　三八一
○假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續……明四一　司訓　七　三八四
○假出獄取締細則ニ關スル取扱手續……明四一　縣訓乙　二四　三九一
○假出獄取締細則ニ依リ交付スヘキ族券及證明書雛形……明四一　内訓　九　三九三

○假出獄人取締標準ニ關スル件……明四一　保　三八六ノ二　四〇一
○假出獄又ハ假出場ニ關スル件……大二　保　五〇三五　四〇二
○刑務所釋放ノ受通知者取扱方ニ關スル件……大一二　保刑　一一五五　四〇三
○陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ニ關スル件……明四一　縣訓乙　二六　四〇六
○假出獄少年取締規則……大一一　司令　三二　四〇八
○假出獄少年取締規則附則第二項ニ依ル保護團體指定……大一二　司告　六　四〇九

第十六章　賍物、沒收品

○犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因テ得タル物件ノ公告及保存還付方……明一五　司達丙　二〇　四一一
○寶扇古物商ヨリ物品徵收ニ關スル件……明四二　保親　二六　四一一
○犯罪用物件及賍物假ニ所有主ニ交付ノ件……明一五　司達　二四　四一三
○明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ノ件……明四二　内令　一三　四一三
○僞造變造ノ印紙等ノ官沒處分取扱ノ件……明四二　縣訓乙　一三六　四一三
○賍物等官ニ於テ領置中遺失及盜難ニ係リタルトキ賠償處分方……明一四　司達丙　六　四一四
○官沒物件破毀ノ件……明三八　内務大臣訓令　一九四　四一五

第十七章　報告、通知

○犯罪事件報告ニ關スル件……大一〇　保　七七四八　四一七
○刑事ニ關スル要視察人報告方ノ件……明四二　指示　三　四二四
○有爵位帶勳者犯罪具申方……明三五　民刑　八〇五　四二四
○敍功者犯罪取扱方……明二八　訓　二六八　四二四
○醫師犯罪等通知ニ關スル件……明四〇　通達衛二二四九　四二五
○醫師齒科醫師及藥劑師犯罪アリタルトキハ左記事項ヲ具シ報告ノ件……明四五　指示　二　四二六
○醫師ノ犯罪ニ關スル報告ノ件……明三〇　指示　三九　四二六
○軍人（逆警罪）處分通報ニ關スル件……明一六　司達丙　六　四二七
○鐵道防害事故報告方ニ關スル件……大一一五　警發甲　八七　四二七
○既決犯罪通知取扱規程……大一四　日記　四五四　四二七
○家出人手配方報告ニ關スル件……大九　保　八二三四　四二九
○觀光人員調查ノ件……明四〇　通達警八六一五　四二九
○觀光人員報告方ノ件……明四一　通達警六六二一　四三一
○觀光人員調查報告方ノ件……大一一二　保　五五五四　四三一

第十八章　雜

○學校盜難豫防警戒ニ關スル件……大六　保　五四二七　四三三
○徵兵令違反者取締ニ關スル件……大八　保　四五八二　四三三
○森林火災取締ノ件……大八　日記　三九八七　四三四
○書類代書ノ件……大八　日記　五二〇四　四三四

第五編　刑事

第一章　貨紙幣、證券、印紙、漉入紙

●僞造貨紙幣、銀行券取締方ノ件

（明治三十八年二月七日岐阜縣内訓第二號）

近來他府縣ニ於テハ寫眞術ヲ應用シ紙幣又ハ銀行券ヲ僞造スル者或ハ化學的作用其他ノ學術ヲ應用シ韓國白銅貨ヲ初メ其他ノ硬貨ヲ僞造スル者アリ之ヲ從來ノ僞造ニ比スルニ其技術頗ル精巧ヲ極メ一見其眞贋ヲ辨スルニ難キモノアリ此等精巧ナル僞造ノ續出スルハ貨紙幣ノ信用ヲ失墜セシメ其ノ流通ヲ阻碍シ害惡ノ及フ所尠少ナカラサルノミナラス其ノ外國ニ流通スル貨幣紙幣其他ノ物件ノ僞造ニ至テハ今日ノ場合殊ニ帝國ノ威信ニモ關シ容易ナラサル儀ニ有之候條之レカ取締ヲ嚴ニシ已ニ犯罪ヲ構成シタルモノニ對シテハ之レカ檢擧ニカメ以テ遺漏ナキヲ期スヘキハ勿論成ル可ク平素ノ査察ヲ嚴密ニシ以テ之ヲ未萠ニ防遏スルノ途ヲ講スルコト最モ必要ノ事ニ有之候依テ今回別紙取扱手續相定候ニ付キ右ニ依リ之レカ視察ヲ周密ニシ以テ取締ノ效果ヲ擧ケンコトヲ期スヘシ

取扱手續

一、本手續中貨幣ト稱スルハ内外國貨紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券、郵便切手、有價證券、手形、印紙等ノ僞造、變造、模造ヲ云フ

二、警察署、分署ハ左記樣式ノ貨幣要視察人名簿二本ヲ製作シ一本ヲ警部長ニ差出スヘシ其增減變更ノトキ亦同シ

三、貨幣要視察人ハ大要左ノ種類トス

イ　貨幣ニ關スル前科者及ヒ嫌疑者

ロ　寫眞業者銅石版師彫刻師鑄物師飾職上繪師漉紙業時計製造及修繕業等ニシテ平素ノ生活狀態又ハ交際人物等ニ依リ

親察ヲ要スヘシト認ムル者

ハ 紙幣詐欺（ペーパー作業）（詐欺トモ云フ）ヲ爲ス者

四 偽幣要視察人名簿ノ備考欄内ニハ視察ヲ要スヘキ事實ノ大要等ヲ記入スヘシ

五 偽幣要視察人ニシテ他府縣ニ旅行スルトキハ電報ヲ以テ警部長ニ報告スヘシ其管内ニ係ルモノハ緩急ヲ計リ便宜ノ方法ヲ以テ其ノ行先地ノ所轄署長ニ通報スヘシ

六 偽幣事件ノ捜査ニ着手シタルトキハ其進行ノ情況ヲ警部長ニ報告スヘシ

七 贋幣ヲ發見シタルトキハ現品ヲ添付シ其發見ノ事實ヲ詳記シ警部長ニ報告スヘシ

八 偽幣要視察人ハ可成寫眞ヲ備置キ其ノ一葉ヲ警部長ニ差出スヘシ

樣式（用紙美濃紙）

前科	竊盜、强盜（何々）ト記ス	本籍
相貌	身長 色 顔 鼻 目 口 耳 肉	住所
特徵		何職身分
		氏名
		生年月日
備考		

●外國流通ノ貨紙幣等偽造變造及模造ニ關スル件

（明治三十八年三月二十日 法律第六十六號）

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ〔重〕懲役又ハ〔輕〕懲役ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ〔輕〕懲役又ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下懲役又ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

收得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條 前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 〔本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス〕

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ場行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 僞造又ハ變造ニ依ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

●僞造變造及模造外國流通貨紙幣等官沒命令ノ件

（明治三十八年三月二十日 內務省令第二號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

●僞造變造及模造外國流通貨紙幣等官沒命令書ノ件

（明治三十八年三月二十九日 岐阜縣訓令第十三號）

明治三十八年三月法律第六十六號第十條及同年同月內務省令第二號ニ依リ官沒處分ヲ爲ストキハ左記樣式ノ命令書ヲ作製交付スヘシ又同法ニ關スル事件ハ司法ノ取扱ヲ爲シタルト否トニ拘ハラス警部長ニ報告シ其ノ官沒シタル物アルトキハ之ヲ送付スヘシ

但明治三十七年七月岐阜縣訓令第三十三號ハ廢止ス

（樣式）

命令書

本籍住所

所持者 氏名

生年月日

一何々 何個（通）

右明治三十八年法律第六十二號第十條ニ依リ官沒スルモノ也

何警察（分）署長

官 氏名 印

明治 年 月 日

●通貨及證券模造取締法

（明治二十八年四月五日 法律第二十八號）

第一條 貨幣、改府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス〕

第三條 第一條ニ揭ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ揭ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

●紙幣類似證券取締法

（明治三十九年五月八日）
（法律第五十一號）

第一條　一様ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ一様ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無效トス

第三條　禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ〔重禁錮〕又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス

禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條　禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

●紙幣類似證券取締ニ關スル件

（大正七年八月五日）
（保第七五五〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

近來補助貨幣（主トシテ二錢、一錢、五厘銅貨）缺乏ノ爲メ商取引其ノ他ニ關シ不便尠ナカラサル處ヨリ一様ノ形式ヲ備ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ若ハ一定ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノ多數ニ發行シ若ハ發行セムトスル者有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ明治三十九年法律第五十一號紙幣類似證券取締法ニ違反スルモノト被存候ニ付テハ平素嚴密注意ヲ爲シ斯ル企テアル者ニ對シテハ懇篤諭示ノ上中止セシメ候樣相當御配慮相成度尚斯ル事實アル場合ニ於テハ注意ニヨリ中止シタルモノナルト否トニ不拘其ノ都度詳細報告相成度此旨及通牒候也

●印紙模造取締規則

（大正五年七月二十日）
（大藏省令第十八號）

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得

前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●漉入紙製造取締規則

（明治二十年七月二十五日）
（勅令第三十六號）

第一條　文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條　紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ漉入シタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フモノハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

●漉入紙製造届出ノ件

（明治四十三年六月十六日）
（大藏省訓令第十六號）

管轄廳（東京府ハ警視廳）ハ明治二十年勅令第三十六號漉入紙取締規則第一條ニ依リ字畫紋ヲ漉入タル紙ヲ製造スル者ヨリ現品ノ見本ヲ添ヘ届出アリタルトキハ其見本カ漉入紙取締規則第二條ニ該當スルコトナキヤ否ヤヲ調査スヘシ

前項見本ニシテ漉入紙取締規則第二條ニ該當スト認メ若ハ其疑アル場合ニ於テハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ハ速ニ之ヲ當省ニ進達スヘシ

●漉入紙製造屆出方

（明治二十年八月二十九日　岐阜縣令第八十一號）

沿革　明治四三年六月縣令第二五號改正

今般勅令第三十六號ヲ以テ文字畫紋漉入紙製造取締規則發布ニ付其屆書ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ差出スヘシ

●漉入紙製造屆書進達ノ際取調方ノ件

（明治三十八年三月十五日　指示保第五號）

漉入紙製造屆書進達ノ際ハ左記各項取調ノ上報告セラルヘシ

一　使用者住所氏名　何府縣郡市町村何某又ハ何々會社何々學校

二　使用ノ目的　何會社株券用何學校卒業證書用或ハ不明

三　一時限リナルヤ又ハ繼續スルヤ

四　製造高約何枚

但卷紙ニ花紋ヲ漉入ルルカ如キモノハ報告ニ及ハス

第二章　不良青少年少女

●不良青少年少女視察規程

（大正十五年五月二十九日　岐阜縣訓令甲第十九號）

沿革　昭和二年四月訓令甲第二九號改正

警察署

第一條　本規程ニ據リ視察スヘキ不良少年少女トハ年齢十八年未滿ノ者不良青年トハ年齢十八年以上二十五年未滿ノ者ニシテ左記各號ニ該當スルモノヲ謂フ

一　犯罪前科者ニシテ改悛ノ情ナク視察ノ必要アル者

二　罪ヲ犯シ又ハ犯スノ虞レアル者

三　金錢ヲ浪費シ又ハ浪費セシメ放蕩淫逸ニ耽ル者

四　平素一定ノ生業ナク又ハ之レアルモ常ニ保護者ノ監督ヲ離レ諸方ヲ浮浪徘徊スル者

五　感化院ヨリ退院シタルモノニシテ視察ノ必要アル者

六　其他常ニ興行場、珈琲店、飲食店等ニ出入シ婦女ニ戲レ若クハ誘拐的行爲ヲ爲シ又ハ通勤通學等ヲ利用シ濫リニ他人ニ文書名刺ノ類ヲ送リ窃ニ交際ヲ求ムル等不良行爲ヲ爲シ又ハ爲スノ虞レアル者

二十五年以上ノ者ト雖モ黨類其他ノ關係上尚必要アリト認ムルモノハ本規程ニ據リ視察ヲ爲スヘシ

黨類關係ヲ有セサル二十五年以上ノ者ニシテ引續キ視察ノ必要アリト認ムルモノハ素行視察簿ニ轉載スヘシ

第二條　警察官署長ハ常時前條該當者ノ有無ヲ調査シ第一號樣式ニ據ル不良青少年少女名簿ニ登錄シ異動ノ都度之レヲ加除訂正スヘシ

第三條　左ノ事項ハ其ノ都度之ヲ警察部長ニ報告スヘシ

一　新ニ名簿ニ登錄シタルトキ（此場合ニ該名簿寫ヲ添附スルコト）

二　改悛ノ情顯著ニシテ名簿ヨリ削除シタルトキ

三　名簿登錄者死亡シタルトキ

四　刑事訴追ニ付シ又ハ感化院ニ送致シタルトキ

五　前各號ノ外名簿ニ登錄シタル事項ニ付キ異動ヲ生シタルトキ

第四條　不良青少年少女ニシテ所轄外ニ轉住シタルトキハ其ノ地所轄警察官署長ヨリ其ノ氏名發見年月日竝ニ發見場所ヲ警察部長ニ前項ノ場合ニ於テ行衞不明トナリタルトキハ其ノ原籍、住所、職業、氏名年齡及行衞不明トナリタル年月日ヲ前住地所轄警察官署長ヨリ警察部長ニ報告スヘシ

第五條　新ニ所轄內ニ轉住シ來リタルモノニシテ不良青少年少女トシテ名簿ニ登錄スヘキモノト認ムル者アルトキハ其旨前住地所轄警察官署長ニ照會シ回答ヲ俟ツテ處理スヘシ

前項ノ照會ヲ受ケタル警察官署長ハ名簿ニ登錄濟ノ者ナル時ハ前條第一項ノ規定ニ據リ處理シ然ラサル者ナル時ハ從來ノ實況ヲ調査シ囘答スヘシ

第六條　警察官署長ハ左記ニ據リ受持巡査ヲシテ常時不良青少年少女ノ視察ヲ爲サシムヘシ但專務員ノ配置シアル警察官署ニ於テハ其ノ所在地及接續町村ニ限リ其ノ專務員ヲシテ爲サシムヘシ

一　受持巡査又ハ專務員ハ警察上必要ナル事項ヲ見聞シタルトキハ之ヲ名簿視察狀況欄ニ記載スヘシ

二　專務員ハ不良青少年少女ノ視察日誌ヲ備ヘ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

前項ノ外受持巡査又ハ專務員ハ每年六月十二月ノ兩度其ノ期間中ニ於ケル視察ノ概況ヲ名簿視察狀況欄ニ記載スヘシ

第七條　警察官署長ハ就學中ノ者ニシテ本規程ニ據ル不良行爲アリト認メタルトキハ父兄及所屬學校長ニ其ノ狀況ヲ內報スヘシ

前項該當者ヲ取調フルノ必要アルトキハ止ムヲ得サル場合ノ外警察官署長自ラ之レニ當リ取扱ハ懇切叮嚀ヲ旨トシ且秘密ヲ嚴守スヘシ

第八條　警察官署長ハ不良青少年少女ノ非行ヲ矯正スル爲メ其ノ父母、後見人、雇主、院主、市町村長、學校長其ノ他篤志家ト協力シテ左記各號ニ據リ改過遷善ノ實ヲ擧クルニ努ムヘシ

一　常ニ家庭ノ狀況業務ノ勤怠生活ノ狀態親交者ノ種類近隣ノ風評其ノ他ノ行動ニ注意シ苟モ荒怠不良ノ行爲ニ出テムトスルモノアルトキハ直ニ之レニ戒飭ヲ加ヘ懇切ニ感化誘導スヘキコト

二　適當ノ職業ヲ有セサルモノニ對シテハ速ニ就職ノ途ヲ講シ生業ニ就カシムルコト

三　登校ヲ怠リ學業ヲ荒廢スル者ニ對シテハ修學上適當ノ方法ヲ講スヘキコト

四　感化法第五條ニ該當スル者アルトキハ速ニ相當ノ措置ヲナスヘキコト

五　前各號ニ據リ難キ場合ハ適宜ノ方法ヲ講スヘキコト

第九條　警察官署長ハ每年一月二十日限リ其ノ前年中ニ於ケル不良青少年少女ノ統計ヲ別紙第二號及第三號樣式ニ據リ警察部長ニ報告スヘシ

第一號樣式

昭和　年　月	本籍 住所	續柄 職業 氏名 生年月日	主ナル親權者又ハ後見人等ノ住所氏名

登錄

教育程度	
犯罪特技及其他不良行爲	
家庭竝生活狀況	
寫眞	
徘徊地名	
性質竝行狀	
監督ノ方法	
前科	人相 丈 / 肉 / 顏色 / 目 / 鼻 / 口 / 耳 / 眉 / 音聲 / 辯 / 特徴
指紋番號	—
親察事項	

不良少年調査第一表

昭和 年十二月末調査

警察署

第二號樣式

種別 / 年齢別	八歳未滿		八歳		九歳		十歳		十一歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
入人員 前年ヨリ越シ人員										
入人員 新ニ登錄セシ人員										
入人員 他府縣ヨリ入レル人員										
入人員 其ノ他										
入人員 計										
出人員 親察感化院ヘ入リタル人員										
出人員 解キタル人員										
出人員 監入										
出人員 他府縣ヘ轉出人員										
出人員 行衞不明										
出人員 死亡										
出人員 其他										
出人員 計										
年末現在人員 業ヲ有スル者										
年末現在人員 業ヲ有セサル者										
年末現在人員 就學者										
年末現在人員 計										
親察度數										

十二歳		十三歳		十四歳		十五歳		十六歳		十七歳		十八歳		十八歳以上二十歳未満		二十歳以上二十五歳未満		二十五歳以上		計		備考
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	

黨類アルモノハ其ノ名稱人員ヲ記載スルコト　最下欄ノ現在數ハ前年ヨリ視察ヲ繼續シ來レル者ト新ニ視察ヲ開始シタル者其ノ他ノ者トノ合計ヨリ改悛ノ爲視察解除シタルモノ以下六欄ノ合計ヲ差引シタル數ヲ記入ノコト

第二表

第三號樣式

昭和　年末現在

種別	性別	年齢別	八歲未滿		八歲		九歲		十歲		十一歲	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
犯罪行爲ヲ爲シタルモノ	前科者											
	執行猶豫者											
	起訴猶豫又微罪釋放者											
	少年法保護處分者											
	其他											
	計											
犯罪行爲ヲ爲ス虞レアル者	警察說諭ヲ受ケタル者											
	其他											
	計											
感化院收容ノ要否	收容ヲ必要トスルモノ											
	收容ヲ必要トセサル者											
	計											
合計												
犯罪行爲ヲ爲シタルモノノ罪名別												

十二歲		十三歲		十四歲		十五歲		十六歲		十七歲		十八歲		十八歲以上
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

二十歳未滿	二十歳以上二十五歳未滿		二十五歳以上		計		備考
女	男	女	男	女	男	女	

記載例　最下欄ノ合計ハ犯罪行爲ヲ爲シタルモノ及犯罪行爲ヲ爲ス虞レアルモノノ合計ヲ記入ノコト

●不良青少年少女視察規程改正ニ關スル件

（昭和二年四月十三日刑第一八七七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

不良青少年少女視察規程第二條ニ規定スル青少年少女名簿竝第九條ニ規定スル第二號樣式第三號樣式ハ昭和二年四月十三日岐阜縣訓令甲第二十九號ヲ以テ今回改正相成候ニ付此際名簿全部轉載整理セラルヘク尙第九條第二號樣式第三號樣式改正ノ結果客年九月二十七日刑第四四六六號通牒ニヨル不良少年調査第一表第二表共爾今廢止候條違算ナキヲ期セラル可シ

第三章　罰則

●命令ニ關スル罰則ノ件

（明治二十三年九月十八日法律第八十四號）

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以內ノ罰金若クハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

●閣令省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件

（明治二十三年九月十八日勅令第二百八號）

沿革　明治三九年九月勅令第二五八號、四一年九月第二四五號改正

第一條　內閣總理大臣及各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ閣令又ハ省令ニ百圓以內ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條　地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ五十圓以內ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

●從前發布シタル現行訓令中現行刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル規定ニ關スル件

（明治四十一年九月二十二日司法省民刑甲第一九三號）

破產管財人指名ノ件ニ關シ明治二十六年三月二十一日民刑第一四一號ヲ以テ地方裁判所ニ訓令相成同號ヲ以テ同所長ヨリ協議有之候ハハ取調方取計フヘキ旨道廳府縣ニ訓令相成候處今回現行訓令中現行刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル規定ニ關シ別紙ノ通裁判所及檢事局ニ訓令相成候ニ付テハ地方裁判所ニ對スル訓令中第二號一及二ノ規定ハ改正刑法施行ノ日ヨリ刑法施行法第二十九條及第三十條ノ例ニ依ルヘキ義ニ有之候條此段及通牒候也

明治四十一年九月二十二日

廳府縣御中

從前發布シタル現行訓令中現行刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル規定ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法施行法第二十九條乃至第三十一條及ヒ第三十三條乃至第三十六條ノ例ニ依リ取扱フ可シ

右訓令ス

明治四十一年九月二十二日

司法大臣子爵　岡部長職

（明治二十二年十二月三十日法律第三十四號）

●決鬪罪處分法

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ〔重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其ノ重キモノハ重キニ從テ處斷ス

●暴力行爲等處罰ニ關スル件

（大正十五年四月十日法律第六十號）

第一條　團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ、兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ揭ケル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條　財產上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條　第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第百九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

●暴力行爲處罰ニ關スル件ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行

（大正十五年九月六日勅令第二百九十九號）

大正十五年法律第六十號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ大正十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●印紙犯罪處罰法

（明治四十二年四月二十八日法律第三十九號）

第一條　行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條　帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條　僞造、變更ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

●再貼印紙注意ノ件

（明治四十三年九月五日保第五一八一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

近來再貼ト認ムヘキ印紙ヲ貼用スルモノ有之甚タ巧ニ消印ヲ消去リ識別ニ難キモノアルカ爲傳染病研究所ニ於テハ凸眼鏡ヲ用ヒテ之レヲ檢査スルノ實況ニモ有之候處警察官ニ於テ科料金ノ徵收狩獵免狀下付等ノ場合ニ收入印紙ヲ收入スルコト可有之ニ付注意方醫保局長ヨリ通牒有之候條之カ收受ノ際ニハ特ニ注意相成度此段及通牒候也

第四章　警察犯處罰令、即決手續

●警察犯處罰令

（明治四十一年九月二十九日）
（内務省令第十六號）

沿革　大正八年九月内令第一七號改正

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一　故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者

二　密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三　一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ强請シ又ハ强テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二　乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三　濫ニ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ强テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ强請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

六　新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虚僞ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告揭載ニ付强テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九　祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

十　自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサリシ者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥醉シテ徘徊シタル者

十二　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四　劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會集ノ妨害ヲ爲シタル者

十五　雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ爲スノ行爲ヲ爲シタル者

十六　人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮說又ハ虚報ヲ爲シタル者

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十　官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一　官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

二十三　河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

二十四　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二十五　出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六　官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

二十七　水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入リ若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二十八　濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九　他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ菜折シタル者

三十　使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三十一　濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二　他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋撒シ又ハ放射シタル者

三十三　神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

三十四　人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五　一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六　不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十七　濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者

二　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ裸裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

三　街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四　濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者

五　家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六　石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠ニシタル者

七　開業ノ產婆故ナク姙婦、產婦ノ招キニ應セサル者
八　故ナク官公署ノ呼喚ニ應セサル者
九　炮煮、洗濯、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
十　濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
十一　監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
十二　濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者
十三　狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ忘リ逸走セシメタル者
十四　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
十五　濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賃貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
十六　橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ處アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
十七　通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附、則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十二年十月六日　岐阜縣令第五十九號）

●岐阜縣警察犯處罰令

沿革　大正二年五月縣令第二二號、三年四月第二一號、七年四月第一二號、八年一二月第五二號、一〇年一〇月第四〇號、一四年一月第一號、九月第四九號、一五年六月第六一號改正

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ武拾圓未滿ノ科料ニ處ス

一　法令ノ規定ニ依ルモノニアラスシテ訴訟、非訟事件ノ紹介、鑑定、和解、仲裁若ハ助言ヲ爲シ利ヲ圖リタル者
二　人ノ名譽ヲ毀損シ若ハ信用ヲ害スヘキ事項ヲ公ニセサルノ報償トシテ金錢物品ヲ收受シ又ハ收受スルノ約束ヲ爲シタル者
三　埋却シタル牛馬羊豚ノ死屍ヲ發掘シ又ハ斃死ノ鳥獸肉ヲ食用ノ爲販賣、交換授與シタル者
四　住所氏名年齡職業等ヲ詐稱シテ投宿又ハ乘船シタル者
五　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
六　持主ヲ詐リ物品ヲ買入シ又ハ販賣シタル者
物品ノ處分權ヲ有スル者ナルコトヲ確認セス又ハ住所氏名ノ詳カナラサル者ノ委託ヲ受ケ或ハ持主ヲ僞リ買入、賣却又ハ交換ノ周旋ヲ爲シタル者
七　官公署ノ建設ニ係ル測量標、量水標ヲ移轉埋沒毀壞擲棄シ又ハ諸車舟筏獸類等ヲ繫キ若ハ衝突セシメ又ハ其ノ近傍一間以內ニ於テ漁業遊泳其ノ他種々ノ惡戲若ハ防碍ヲ爲シタル者
八　許可ヲ受ケスシテ公用ニ供シタル官有ノ土地水面ヲ埋立開墾又ハ占用使用シ若ハ土石、砂礫等ヲ採取シタル者
九　河川法施行河川ノ區域內ニ於ケル工作物ヲ損壞若ハ撤去シ又ハ許可ヲ受ケスシテ河川ノ地盤ヲ變更シ若ハ土砂石礫等ヲ採取シタル者
十　賭博ノ場所ニ參集シタル者
十一　警察官署ノ說諭ヲ受クルモ生業ニ就カサル者
十二　小學校兒童ヲシテ同盟休校ヲ爲サシメ又ハ其ノ勸誘若ハ決議ヲ爲シタル者
十三　租稅、公課ノ滯納ヲ勸誘又ハ決議シタル者
十四　（削除）

十五　故ナク他人ニ對シ土地ノ引上、返還ヲ強要シ又ハ土地ノ賣買、交換、貸借及其ノ周旋ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者

十六　濫ニ鐘鼓喇叭ノ類其ノ他警備ノ用ニ供スルモノヲ鳴ラシタルモノ

十七　夜間十二時後濫ニ他人ノ門戸ニ就キ面會ヲ求メタル者

十八　故ナク他人ノ業務又ハ訴訟事件、非訴訟事件其ノ他ノ紛議ニ干渉シタルモノ

十九　紛議ニ關シ多數連行シ交渉シ又ハ之ヲ煽動シタル者

二十　故ナク多衆團結シテ冠婚、葬祭、儀式、祝典其ノ他地方ノ慣例ニ依ル交際ヲ絶ツコトヲ決議シ若ハ實行シ又ハ之ヲ爲サシメタルモノ

二十一　淨化セサル糞尿ヲ河川又ハ溝渠ニ放流シタルモノ

二十二　濫ニ消防綿内ニ立チ入リ又ハ消防綿内ニ於テ警察官吏ノ指揮ニ從ハサルモノ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

一　炮煮洗滌剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ヲ罹蓋ヲ設ケス行商シタル者

二　許可ヲ得スシテ神社佛堂ノ類ヲ新設シタル者

三　社寺佛堂以外ノ場所ニ神佛ヲ祀リ公衆ニ參拜ヲ爲サシメタル者

四　故ナク人家ノ軒下ニ佇立シ若ハ屋内ヲ覗見シタル者

五　異樣ノ扮裝ヲナシ路上ヲ徘徊シテ制止ヲ肯セサル者

六　雞犬ノ類ヲ鬪ハシメタル者

七　喧嘩口論ヲナシ警察官吏ノ制止ヲ肯セサル者

八　警察官署ニ届出ヲナサスシテ濫ニ野犬ノ類ヲ殺シタル者

九　警察官吏ノ注意ヲ受ケ其ノ指定期定期間内ニ火防上必要ナル場所ノ設備、修理、掃除其ノ他ノ行爲ヲ爲ササル者

十　濫ニ路傍河岸地河川溝渠其ノ他他人ノ田園等ニ塵芥濕泥瓦礫ノ類ヲ投棄シタル者

十一　慣習アル場合ノ外公衆ノ安眠ヲ妨害スル場所ニ於テ午前十二時後歌舞音曲ヲ爲シ又ハ喧噪シタル者但シ貸座敷免許地域内ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

十二　危險ノ虞アル爆發性ノ玩弄物ヲ製造シ若ハ販賣シタル者

十三　警察官吏ノ注意ヲ受ケ指定ノ期間内ニ路傍ノ便所糞池又ハ汚物溜ニ防圍覆蓋ノ設備又ハ修理ヲ爲ササル者

十四　堤防其ノ他河川ノ工作物ニ牛馬舟筏ヲ繫キ若ハ牛馬ヲ放飼シタル者

十五　家禽ヲ放飼シテ他人ノ農作物其ノ他ノ物ヲ害シタル者

十六　業務上取引ニ於テ秤ニ常用スル風袋ニ其ノ實量ヲ見易キ方法ニ依リ表記セス又ハ其ノ實量ト表記量ト異ナルモノヲ使用シ若ハ使用ノ目的ヲ以テ所持スル者

十七　精米ニ濕氣ヲ含マシメ又ハ著シク糠ノ附著セル儘之ヲ販賣シ若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

十八　未監置精神病者ヲ監護スヘキ義務アル者ニシテ警察官吏ヨリ特ニ命セラレタル監護ヲ怠リタル者

十九　方法ノ何タルヲ問ハス營業ニ紛ラハシキ行爲ヲ爲シ利ヲ貪リタル者

二十　天災其ノ他事變ニ際シ生活上必需品ノ供給ニ暴利ヲ貪リ又ハ貪ラムトシタル者

二十一　曳犬ヲ使用シテ人力車、荷車其ノ他諸車ヲ行車スルニ其ノ曳綱ヲ車軸ニ附セス又ハ其ノ長サ五尺ヲ超ユルモノ

二十二　日出前若ハ日沒後、市街地其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ空氣銃ヲ使用シ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ捕獲セントシタル者

第三條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附　則

第四條　明治三十三年二月岐阜縣令第十三號岐阜縣違警罪ハ之ヲ廢止ス

●金錢ヲ強請スル不正ノ輩取締ノ件

（大正十二年十二月十四日　保刑第二八三九號通牒）

警察部長ヨリ警察官署長宛

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ岡田警保局長ヨリ通牒有之候條之等該當者ニ對シテハ視察ヲ嚴ニシ互ニ聯絡ヲ保持シ取締上遺算ナキヲ期セラルヘシ

別紙

（大正十二年十二月七日　內務省發警第一〇號）

警保局長ヨリ知事宛

近時新聞雜誌記者又ハ何々團員ト稱スル者其ノ他ニシテ種々ノ辭柄ヲ構ヘテ政治家紳士紳商商會社銀行及特種ノ營業者ニ對シ金錢ヲ強請スル者各地ニ尠カラサル模樣ニ有之特ニ震災地方竝ニ之ト密接ノ關係ヲ有スル府縣ニ於テ其ノ著キモノアルヲ覺エ候處是等徒輩ハ固ヨリ正當ノ職業ヲ有セス又他人ニ與フル迷惑ノ如キハ毫モ之ヲ意トセス一ニ金錢ヲ強請シテ私腹ヲ滿タスヲ專ト爲ス者ニシテ一方被害者ニ於テモ常ニ其ノ煩累ト迷惑トヲ痛感セルニ拘ス後難ヲ懸念シテ取締官憲ニ申告スル等ノコトヲ爲サス殆ト之レヲ穩秘スルノ實情ニ在ルヲ以テ益々此ノ種不逞ノ徒ノ橫行跋扈ヲ見ルニ至ル哉ニ被存公安上看過スヘカラサル義ト思料被致候間左記各項御參照ノ上嚴重御取締相成候樣致度右申進候也

記

一　各府縣一齊ニ本文記載ノ如キ不逞ノ徒ノ調査ヲ爲シ其ノ著シキモノニ對シテハ廳府縣間住所移動ヲ互報シ常ニ嚴重ナル視察ヲ加フルコト

二　以上ノ者ニ對シテハ正業ニ復スル樣將來ヲ戒諭スルコト

三　此種ノ被害ニ罹ル虞アル者ニ對シテハ強請ヲ受ケタル場合必ス內密屆出ヲ爲サシムル樣豫メ注意スルコト

●強談威迫面會強請者等處罰ニ關スル件

（昭和二年一月二十日　刑親第八九號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

近時新聞雜誌記者又ハ社會運動其他慈善的或ハ公共的事業ヲ爲スモノナリト稱シテ他人ニ面會ヲ強請シ或ハ強談威迫其他ノ所謂暴力的行爲ニ出ツルモノ漸次多キヲ加ヘ一般良民ノ蒙ムル迷惑甚タシキモノアルヤノ聞ヘアリ而シテ右事犯ニ對シテハ從來警察犯處罰令第一條ニ依リ處罰ヲ爲シ來リタルモ所刑輕キニ過クルノミナラス累犯加重ノ規定モ無之爲メ以テ不逞ノ徒ヲ威嚇スルニ足ラス彼等ヲシテ刑ヲ睹シテ犯行ヲ逞フセシムルノ嫌ヒアリ誠ニ遺憾ノ點勘ナカラサリシカ之ニ鑑ミ這般暴力行爲處罰ニ關スル法律ヲ公布セラレ同法第二條第二項ニ依リ常習トシテ故ナク前記ノ行爲ヲ爲スモノハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處セラルルコトトナリ相當脅威ヲ感セシムルニ至リタルカ常習トシテ之ヲ爲スモノト認定スルニハ先ツ嚴ニ前記警察犯處罰令ニ依リ處罰セラレタルノ事實アルコトヲ最モ愼トスルモノナルモ彼等不逞者ノ多クハ轉々各地ヲ徘徊シテ犯行ヲ爲ス關係上他署ニ於テ處罰スル事實ハ之ヲ知ル事ヲ得サル場合多ク其ノ爲メ常習者ニ對シテモ尙輕キ即決處分ヲ爲スノミニテ彼等ヲシテ訟告ヲ免レシメ延ヒテハ法ヲ蔑視スルニ至ラシムルノ結果ヲ招來シ折角法律ヲ制定セラレタルノ趣旨ニ副ヘサル事ト相成ルヘキニ付將來右事犯ヲ檢擧シタル場合ハ可成處罰ニ先タチ本籍地住所地警察署ニ對シ常習トシテ當該行爲ヲ爲スモノニ非サルヤ前記事犯關係前科ノ有無等詳細調査ノ上適當ノ處置ヲ爲スヘク尙即決處分ヲ爲シ又ハ該法律ニ依リ送致シタル場合ニ於テハ直チニ警察部長ニ報告シ且ツ各警察署ハ「暴力行爲者名簿」ヲ設ケ警察部ヨリノ通牒ニ基キ登載整理シ置ク等取締上萬遺憾ナキヲ期セラルヘシ

四　届出ニ對シ報復ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ嚴重處罰スル方針ヲ以テ臨ムコト

犯罪ニ該當スルモノニ付テハ即決處分ヲ爲シ又ハ檢察當局トモ打合セ事件ヲ送致スル等必要ナル方法ヲ講スルコト

迫テ從來前記事犯ヲ處罰スル場合ニ於テ面會強請等ノ事實アルモ一定ノ住所職業ナキ點等ヲ主トシ單ニ浮浪罪等ニ依リ處分セラルル向モ有之哉ニ認メラレ候ヘ共右ノ場合ハ可成面會强請等ノ事實ヲ明カニシ之ニ依ツテ處罰セラルル方法ノ趣旨ニ適合シ取締ノ徹底ヲ期シ得ラルモノト認メラレ候條爲念

暴力行爲者名票

No.

本籍		職業氏名	
住所		生年月日	
犯罪特技及不良行爲ノ種別		人相	丈
			肉
			顔ノ色
			目
			鼻
			口
			耳
			眉
			音聲
			辯
			特徴
		指紋番號	
教育程度		通稱綽號雅號藝名	
崇拜者		系統	
主ナル親交者		徘徊地名	

言渡年月日	罪名	刑名	刑期	言渡裁判所	取扱警察署

備考　拘留科料モ總テ記載ノコト

●〔違警罪〕即決例

（明治十八年九月二十四日太政官布告第三十一號）

第一條　警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル〔違警罪〕ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

（實例）違警罪再犯加重ノ場合ハ何レノ管轄ナリヤト云フニ違警罪ヲ正式ニ裁判スヘキ官署即チ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキハ勿論ナルヘシ違警罪即決處分ノ執行ハ他府縣ニ囑託スルコトヲ得ヘキモノト信スルナリ

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達テルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ〔違警罪裁判所〕ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ〔違警罪裁判所檢察官〕ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ヲ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒收シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直ニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ一日ヲ一圓折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●〔違警罪〕即決例ニ關スル件

（大正五年十月保達第九七七〇號）

〔違警罪〕即決例ニ依ル正式裁判申立期間竝ニ留置期間ニ關シ左記ノ通リ司法省ニ於テ省議決定ノ旨岐阜地方裁判所檢事正ヨリ申越有之候條右ニ據リ取扱ハルヘク此段及通達候也

左記

司法省
法務局刑甲第七六五號
〔違警罪〕即決例ニ依ル正式裁判申立期間ノ最終日カ休暇ニ當ル場合ハ從來之ヲ期間ニ算入スヘキ省議ニ有之候處今般右省議ヲ變更シ期間ニ算入セサルコトニ省議決定相成候但第十條但書ノ場合ニ於テ留置期間ヲ計算スルニハ留置ノ即日ヨリ起算シ其最終日カ休暇ニ當ル場合ト雖モ之ヲ留置期間ニ算入スル儀ニ候條御承知相成度依命此段及通牒候也

大正五年九月二十九日

地方裁判所長
檢事正

司法次官法學博士　鈴木喜三郎

●〔違警罪〕即決例第十條ニ依ル留置期間ノ計算ニ關スル件回答

（大正六年十二月　警岐第九三號）

本件ニ關シ本月一日附保第一〇〇八〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右佐賀縣知事問合セニ對スル明治二十六年二月十六日附刑甲第三十六號司法次官回答及岐阜地方裁判所檢事正請訓ニ對スル明治三十年一月八日附民刑甲第一號司法大臣訓令ハ正式裁判申立ノ期間ヲ計算スルニハ言渡又ハ言渡書送達ノ日ヲ算入セサルノ趣旨ナルヲ明カニスルト同時ニ留置期間ハ留置ノ即日ヨリ之ヲ起算スヘキモノナルヲ示シ大正五年九月十九日附刑甲第七六五號司法次官通牒ハ更ニ右正式裁判申立ノ期間ニ付キ最終ノ日カ休暇ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セサルコトニ省議變更シタルヲ留置期間ニ就テハ其ノ最終ノ日カ休暇ニ當ル場合ト雖モ尚之ヲ期間ニ算入スヘキコトニ決定相成候次第ニ付拘留料ニ該ルヘキ罪ノ即決處分ニ就テハ御意見ノ通リ右訓令及通牒等ノ趣旨ニ依リ御取扱相成可然義ト存候照會書末段ニ御援用相成候埼玉縣令財物募集取締規則違反事件ニ對スル大正三年（れ第四四七號）四月十七日大審院判決ハ刑事訴訟手續上特別ノ規定ナキ限リハ刑事訴訟法第十五條ノ原則ニ準據スヘキモノナレハ違警罪即決例第五條ニ定メタル期間ニ就テモ亦同一ノ計算法ニ從ハシムル法意ナリト解セサルヘカラサルモ同例第十條ノ期間ハ之レト同一ナラシムルノ意ニアラストシテ右兩條ノ期間ノ起算點ヲ異ニスヘキ理由ヲ述ヘタルモノニシテ留置期間ニ對スル前示解釋ヲ否定スルノ趣旨ニハ無之候條右樣御了知相成度候

永田警保局長

鹿子木岐阜縣知事殿

●〔違警罪〕即決例適用ニ關スル件

（大正八年十月　保第一〇八四三號）

〔違警罪〕即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ差出シタル者ニ對スル日數ノ計算方竝ニ同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキ刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ニ於ケル取扱方區々ニ渉ル點アル趣ヲ以テ左記ノ通リ內務省警保局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條今後ハ本通牒ニ基キ取扱可相成此段及依命通牒候也

左記

一　〔違警罪〕即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ翌日又ハ其以後ニ保證金ヲ差出シタルトキハ假令差出ノ日カ一日ニ滿タサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト

二　同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキ刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサルトキハ此等ノ者ニ對シ拘留執行ヲ強制スルノ方法ヲ講スルコトナク第十一條ニ依リ保證金ヲ沒入シ本刑ニ換フルコト

●正式裁判執行ノ件ニ付通牒ノ件

（大正七年十一月十三日　保第九七六一號）

各警察官署長

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ岐阜地方裁判所檢事正ヨリ通牒有之候條取扱上相當注意相成度此旨及通牒候也

追テ保證金又ハ假納ノ科料金ハ正式裁判請求アルト同時ニ申立人ニ返付スルコトニ御取扱相成度申添候

寫

日記第四一〇一號
大正七年十月九日

警察部長坂本森一殿

正式裁判執行ノ件ニ付通牒

岐阜地方裁判所檢事正　中川富太郎

〔違警罪〕即決ニ對シ正式裁判申立ノ結果拘留又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合警察署ニ於ケル留置日數又ハ保證金ハ之ヲ本段ニ換フヘキ先例ナリシ處將來之ヲ變更シ右留置日數又ハ保證金ニ關セス裁判所ノ言渡シタル本段ノ通執行スルコトニ相成候

●〔違警罪〕即決年表ノ件

（大正四年三月六日
保第二〇〇四號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來調査相成居候違警罪即決事件年表ニハ大正四年度分ヨリ該年度ニ言渡シタルモノノ内正式裁判ノ申立ヲ爲シタル人員ヲ表中各欄内ニ朱書ヲ以テ附記スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候ニ就テハ明年度ヨリハ右趣旨ニ依リ調査報告相成度此段及通牒候也

●〔違警罪〕即決處分ニ關スル件

（大正四年十二月二十八日
保第九二七三號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察官署ニ於テ違警罪即決例ヲ適用スル場合ハ「拘留若ハ科料」刑ニ該當スルモノノミニ限リ「禁錮若ハ拘留」又ハ「罰金若ハ科料」等ノ選擇刑ニ屬スルモノニ付テハ事件ヲ裁判所ニ送致スルノ取扱ニ相成居候コトト存候處多數ノ即決官中ニハ右等選擇刑ニ係ルモノニ對シ仍ホ違警罪即決例ヲ適用スル向往々有之候趣ヲ以テ周到注意方警保局長ヨリ通牒有之候條注意相成度此旨及通牒候也

●拘留科料即決手續

（明治四十一年十一月二十日
岐阜縣訓令乙第九十一號）

第一條　警察署長警察分署長又ハ其代理者ハ告訴告發其他ノ原由ニ依リ拘留科料ニ該ルト認ムル罪アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ此手續ニ依リ處理スヘシ

第二條　現役又ハ召集中ノ陸海軍軍人軍屬ニ對スル告訴告發アルトキハ直チニ其事件ヲ憲兵官衙ニ送致スヘシ

第三條　即決言渡ヲ爲スニハ被告人ノ性格犯罪ノ原由及其狀態等ヲ審按シテ刑罰量定ノ資料トナスヘク若シ必要アリト認メタルトキハ聽取書又ハ調書ヲ作成スヘシ

第四條　即決言渡書ノ原本ハ第一號樣式ニ依リ作成スヘシ

缺席ノ儘言渡ヲ爲ストキハ第二號樣式ニ依リ言渡書ノ正本ヲ本人又ハ其住所ニ送達スヘシ

第五條　即決例第八條ニ依リ同例第九條第十條ノ處分ヲナストキハ第一號樣式末欄ノ例ニ依リ命令ヲ爲スヘシ

第六條　拘留ノ言渡確定シタルトキハ其言渡書ノ謄本ヲ添ヘ第三號樣式ニ依リ執行通知書ヲ作成シ犯人ヲ監獄ニ送致スヘシ但監獄遠隔ノ土地ナルトキ若ハ刑期短クシテ押送ノ不利ナルトキ又ハ特ニ必要アルトキハ便宜警察官署ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得

警察官署拘禁中ノ拘留囚ニシテ餘罪取調其他ノ事由ニ依リ監獄又ハ他ノ警察官署ニ移監ノ必要アルトキハ前項ノ例ニ依ルヘシ

科料ノ言渡ヲ受ケ勞役場ニ留置スヘキモノニ付テモ亦前一項ヲ準用ス

即決例第九條ニ依ル留置ハ警察官署ノ留置場ニ於テ執行スヘシ

第七條　拘留科料ノ言渡ヲナシタルモノニ對シ即決例第八條ノ處分ヲ爲ササル場合若ハ缺席ノ儘言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ犯人ノ居所カ其管轄地外ナルトキハ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ（缺席ノ儘言渡ヲ爲シタル場合ハ第五條二項書類送達ト共ニ）刑ノ執行ヲ第四號樣式ニ依リ犯人ノ居所ノ警察官署ニ囑託スヘシ勞役場留置ヲナスヘキ場合ニ於テ犯人ノ居所カ其管轄地外ナルトキ亦前項ニ準ス

受託警察官署ハ終局マテ取扱ヒ其結果ハ速ニ囑託官署ニ通知スヘシ

若シ犯人カ受託警察官署ノ管轄地外ニ居所ヲ移轉シタルトキハ受託警察官署ハ其地ノ警察官署ニ移送スヘシ

他府縣ニ囑託シ又ハ他府縣ヨリ囑託ヲ受ケタル場合モ前數項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第八條　前條ニ依リ拘留科料ノ執行ヲ囑託シタル後囑託警察官署ニ正式裁判ノ請求ヲナシタルトキハ直ニ其旨ヲ受託警察

●〔違警罪〕即決例第十條ニ依ル留置期間ノ計算ニ關スル件回答

（大正六年十二月　警岐第九三號）

本件ニ關シ本月一日附保第一〇〇八〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右佐賀縣知事問合セニ對スル明治二十六年二月十六日附刑甲第三十六號司法次官回答及岐阜地方裁判所檢事正請訓ニ對スル明治三十年一月八日附民刑甲第一號司法大臣訓令ハ正式裁判申立ノ期間ヲ計算スルニハ言渡又ハ言渡書送達ノ日ヲ算入セサルノ趣旨ナルヲ明カニスルト同時ニ留置期間ハ留置ノ即日ヨリ之ヲ起算スヘキモノナルヲ示シ大正五年九月十九日附刑甲第七六五號司法次官通牒ハ更ニ右正式裁判申立ノ期間ニ付キ最終ノ日カ休暇ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セサルコトニ省議變更シタルモ留置期間ニ就テハ其ノ最終ノ日カ休暇ニ當ル場合ト雖モ尚之ヲ期間ニ算入スヘキコトニ決定相成候次第ニ付拘留料ニ該ルヘキ罪ノ即決處分ニ就テハ御意見ノ通リ右訓令及通牒等ノ趣旨ニ依リ御取扱相成可然義ト存候照會書末段ニ御援用相成候埼玉縣令財物募集取締規則違反事件ニ對スル大正三年（れ第四四七號）四月十七日大審院判決ハ刑事訴訟手續上特別ノ規定ナキ限リハ刑事訴訟法第十五條ノ原則ニ準據スヘキモノナレハ違警罪即決例第五條ニ定メタル期間ニ就テモ亦同一ノ計算法ニ從ハシムル法意ナリト解セサルヘカラサルモ同例第十條ノ期間ハ之レト同一ナラシムルノ意ニアラストシテ右兩條ノ期間ノ起算點ヲ異ニスヘキ理由ヲ述ヘタルモノニシテ留置期間ニ對スル前示解釋ヲ否定スルノ趣旨ニハ無之候條右樣御了知相成度候

永田警保局長

鹿子木岐阜縣知事殿

●〔違警罪〕即決例適用ニ關スル件

（大正八年十月　保第一〇八四三號）

〔違警罪〕即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ差出シタル者ニ對スル日數ノ計算方竝ニ同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキ刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ニ於ケル取扱方區々ニ渉ル點アル趣ヲ以テ左記ノ通リ內務省警保局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條今後ハ本通牒ニ基キ取扱可相成此段及依命通牒候也

左記

一　〔違警罪〕即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ翌日又ハ其以後ニ保證金ヲ差出シタルトキハ假令差出ノ日カ一日ニ滿タサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト

二　同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキ刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサルトキハ此等ノ者ニ對シ拘留執行ヲ強制スルノ方法ヲ講スルコトナク第十一條ニ依リ保證金ヲ沒入シ本刑ニ換フルコト

●正式裁判執行ノ件ニ付通牒ノ件

（大正七年十一月十三日　保第九七六一號）

各警察官署長

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ岐阜地方裁判所檢事正ヨリ通牒有之候條取扱上相當注意相成度此旨及通牒候也

追テ保證金又ハ假納ノ科料金ハ正式裁判請求アルト同時ニ申立人ニ返付スルコトニ御取扱相成度申添候

寫

日記第四一〇一號
大正七年十月九日

岐阜地方裁判所檢事正　中川富太郎

警察部長坂本森一殿

正式裁判執行ノ件ニ付通牒

〔違警罪〕ノ即決ニ對シ正式裁判申立ノ結果拘留又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合警察署ニ於ケル留置日數又ハ保證金ハ之ヲ本段ニ換フヘキ先例ナリシ處將來之ヲ變更シ右留置日數又ハ保證金ニ關セス裁判所ノ言渡シタル本段ノ通執行スルコトニ相成候

●〔違警罪〕即決年表ノ件

（大正四年三月六日
保第二〇〇四號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來調査相成居候違警罪即決事件年表ニハ大正四年度分ヨリ該年度ニ言渡シタルモノノ内正式裁判ノ申立ヲ爲シタル人員ヲ表中各欄内ニ朱書ヲ以テ附記スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候ニ就テハ明年度ヨリハ右趣旨ニ依リ調査報告相成度此段及通牒候也

●〔違警罪〕即決處分ニ關スル件

（大正四年十二月二十八日
保第九二七三號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察官署ニ於テ違警罪即決例ヲ適用スル場合ハ「拘留若ハ科料」刑ニ該當スルモノノミニ限リ「禁錮若ハ拘留」又ハ「罰金若ハ科料」等ノ選擇刑ニ屬スルモノニ付テハ事件ヲ裁判所ニ送致スルノ取扱ニ相成居候コトト存候處多數ノ即決官中ニハ右等選擇刑ニ係ルモノニ對シ仍ホ違警罪即決例ヲ適用スル向往々有之候趣ヲ以テ周到注意方警保局長ヨリ通牒有之候條注意相成度此旨及通牒候也

●抱留科料即決手續

（明治四十一年十一月二十日
岐阜縣訓令乙第九十一號）

第一條　警察署長警察分署長又ハ其代理者ハ告訴告發其他ノ原由ニ依リ拘留科料ニ該ル罪アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ此手續ニ依リ處理スヘシ

第二條　現役又ハ召集中ノ陸海軍軍人軍屬ニ對スル告訴告發アルトキハ直チニ其事件ヲ憲兵官衙ニ送致スヘシ

第三條　即決言渡ヲ爲スニハ被告人ノ性格犯罪ノ原由及其狀態等ヲ審按シテ刑罰量定ノ資料トナスヘク若シ必要アリト認メタルトキハ聽取書又ハ調書ヲ作成スヘシ

第四條　即決言渡書ノ原本ハ第一號樣式ニ依リ作成スヘシ

缺席ノ儘言渡ヲ爲ストキハ第二號樣式ニ依リ言渡書ノ正本ヲ本人又ハ其住所ニ送達スヘシ

第五條　即決例第八條ニ依リ同例第九條第十條ノ處分ヲナストキハ第一號樣式末欄ノ例ニ依リ命令ヲ爲スヘシ

第六條　拘留ノ言渡確定シタルトキハ其言渡書ノ謄本ヲ添ヘ第三號樣式ニ依リ執行通知書ヲ作成シ犯人ヲ監獄ニ送致スヘシ但監獄遠隔ノ土地ナルトキ若ハ刑期短クシテ押送ノ不利ナルトキ又ハ特ニ必要アルトキハ便宜警察官署ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得

警察官署拘禁中ノ拘留囚ニシテ餘罪取調其他ノ事由ニ依リ監獄又ハ他ノ警察官署ニ移監ノ必要アルトキハ前項ノ例ニ依ルヘシ

科料ノ言渡ヲ受ケ勞役場ニ留置スヘキモノニ付テモ亦前項ノ例ニ依リ執行スヘシ

即決例第九條ニ依ル留置ハ警察官署ノ留置場ニ於テ執行スヘシ

第七條　拘留科料ノ言渡ヲナシタルモノニ對シ即決例第八條ノ處分ヲ爲サヽル場合若ハ缺席ノ儘言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ犯人ノ居所カ其管轄地外ナルトキハ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ（缺席ノ儘言渡ヲ爲シタル場合ハ第五條二項書類送達ト共ニ）刑ノ執行ヲ第四號樣式ニ依リ犯人居所ノ警察官署ニ嘱託スヘシ勞役場留置ヲナスヘキ場合ニ於テ犯人ノ居所カ其管轄地外ナルトキハ亦前項ニ準ス

受託警察官署ハ終局マテ取扱ヒ其結果ハ速ニ嘱託官署ニ通知スヘシ

若シ犯人カ受託警察官署ノ管轄地外ニ居所ヲ移轉シタルトキハ受託警察官署ハ其地ノ警察官署ニ移送スヘシ

他府縣ニ嘱託シ又ハ他府縣ヨリ嘱託ヲ受ケタル場合モ前數項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第八條　前條ニ依リ拘留科料ノ執行ヲ嘱託シタル後嘱託警察官署ニ正式裁判ノ請求ヲナシタルトキハ直ニ其旨ヲ受託警察

官署ニ通知スヘシ

用紙美濃紙

即決言渡

第　號			
被告人	族籍	職業	氏名	年齢
犯罪年月日時			
犯罪場所			
犯罪事實			
發覺事由	現行犯 巡査何某告發	減輕	刑法第　條ニ依リ減輕
適用法條	明治四十一年内務省令第十六號警察犯處罰令第二條第四號		
及處斷	科料金五圓 此言渡確定後十日内ニ科料金ヲ完納セサルトキハ刑法第十八條ニ依リ十日間勞役場ニ留置ス		

右言渡スモノ也　此言渡ニ對スル正式裁判請求期間ハ　日以内

明治　年　月　日　於　警察署々長　警部

對席缺席ノ別

月　日　正式裁判請求　執行納　完

命令

右拘留科料ノ言渡ヲ爲シタルニ就テハ保證科料金何圓何拾錢　月　日中ニ差出假納スヘキコトヲ違警罪即決例第十條ニ依リ命令ス

明治　年　月　日　於　警察署々長警部

右明治　年　月　日マテニ保證科料金ヲ差出假納セサルニ依リ違警罪即決例第十條ニヨリ　日間ノ留置ヲ命ス

明治　年　月　日　於　警察署々長警部

送達書

一即決言渡書

右　縣　市　町　通　郡　村　番戸

送達スヘキモノナリ

明治　年　月　日　警察署　ニ於　ニ送達シ

右ノ言渡ハ　月　日　時　送達人

受取人左ニ　受取人

即決言渡書

被告人族籍職業氏名生年月日	
犯罪年月日	
犯罪場所	
犯罪事由	
發覺事由	
適用法條及處斷	

右言渡スモノ也但此言渡ニ對スル正式裁判請求期間ハ五日以内トス

明治　年　月　日　於　警察署々長

命令

右原本ニ依リ此正本ヲ造ル

明治　年　月　日　於　警察署

執行通知書

留置スヘキ日數	
期算日	
犯人住所氏名年齢	
備考	

右別紙即決言渡書謄本ノ通言渡確定（候付本刑）（當署留置場ニ於テ本刑執行中ノ處都合ニ依リ及移監候條殘刑）（セシモ科料金何圓ヲ納付スルコト能ハサルモノト認ムルニヨリ勞役場留置）執行有之度候也

明治　年　月　日　印

宛

岐阜縣警察（分）署長

警視（警部）　何　某　印

宛

號

岐阜縣　警察署

年　月　日

囑託書

住所

氏名

右者ニ對スル別紙即決言渡書御送達ノ上拘留執行（科料金徵收）（勞役場留置）御取計相成度囑託候也

追テ送達ヲ受クヘキモノ所在不明其他ノ理由ニ依リ送達若ハ執行シ能ハサルモノト思料セラルルトキハ受囑後三十日以内ニ書類返戻相成度又ハ他ノ警察官署ノ管内ニアリト思料セラルル場合ハ書類ヲ移送シ其旨御通知相成度併セテ囑託候也

此一片切斷所要ノ記入相成御返戻ヲ得度候

受託結果通知書

囑託書日付	
同　上番號	
送達年月日場所	
受取人氏名	
送達人氏名	
送達不能事由	
備　考	

右ノ通取扱候也

明治　年　月　日

岐阜縣警察署御中

何　警察分署

犯人住所	
氏　名	
拘留執行	
科料金徴收	
勞役場留置	

●勞役場留置ノ言渡其他協議ノ件（明治四十一年十月二日警發第三七號ノ内警保局長通牒）

本月二十四日警山第三七號ノ内ヲ以テ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス場合ニ於テ勞役場留置ノ言渡シヲモ爲シ得ルヤ否等其他ノ件ニ關シ御照會ノ趣領承右ノ場合ニ於テモ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シテ若シ科料ヲ假納セサルトキハ同例第九條ニ依リ刑法第十八條第五項ニ定ムル期間内ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ達スルマテ引續キ留置スヘキモノト致思考候又刑法施行前ニ於テ警察官署カ言渡シタル科料處分ニ付テハ刑法施行法第十三條ニ準シ警察官署ニ於テ其ノ決定ヲ爲スヘキモノト致思考候將又留置スヘキ勞役場ハ監獄法第一條第八條及第九條ニ依リ警察官署留置場ヲ以テ代用シ得ヘキモノト被考量候此段及回答候也

明治四十一年九月三十日

内務省警保局長有松英義殿

司法省民刑局長法學博士　平沼騏一郎

●〔違警罪〕裁判言渡書ノ謄本又ハ拔書下附ノ費用ハ徴收シ其即決ニ係ルモノハ舊ニ仍ラシム（明治十八年十二月九日司法省達丙第十號）

裁判所　警視廳　府縣（東京府ヲ除ク）

明治十五年三月當省丙第十二號ヲ以テ〔違警罪〕裁判言渡書ノ謄本又ハ拔書ヲ下付ス可キ費用ハ當分徴收ス可カラサル旨相達置候處本年九月第三十一號ヲ以テ〔違警罪〕即決例公布相成候付テハ爾今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ從前ノ通取計可シ此旨相達候事

●〔違警罪〕告發書ヲ要セス即決スヘキ件

（明治二十年十一月指示第一五六號）

警察署長分署長其部内ニ於テ自ラ〔違警罪〕犯ヲ認知シタル時ハ告發書ヲ要セス直ニ即決スヘキモノトス

●〔違警罪〕科料金ニ關スル件

（明治三十七年十月十九日警保第六七九一號）

警察官署間囑託ニ係ル〔違警罪〕科料金徴收方ハ受託署ニ於テ調定收入シ囑託署ヘ收入濟年月日通知スルコトニ取扱ハシメ候條貴管内關係ノ向ヘモ同樣其旨御通達置相成度此段及照會候也

北海道廳長官ヨリ本縣知事ヘ

●〔違警罪〕事件受託簿ノ件

（明治三十七年三月指示第二號）

缺席言渡ニ係ル〔違警罪〕事件ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左記樣式ノ簿册ニ記載處理スヘシ

〔違警罪〕事件受託簿

囑託署		受付	年月日
適用法條		科料金	
言渡書送達		科料完納	年月日
換刑執行	命令 年月日	報告送金	年月日
	自 月日	住所	
		氏名	

囑託署		受付	年月日
適用法條		科料金	
言渡書送達		科料完納	年月日
換刑執行	命令 年月日	報告送金	年月日
	自 月日	住所	
		氏名	

記載例

報告送金トアル欄ハ警察署ニハ適用セス分署ニ於テ確定又ハ送金ノ都度記入スルモノトス

●〔違警罪〕即決例ニ依ル保證金ノ取扱ニ關スル件

（大正十五年五月二十八日保刑第二六七七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

五月二十四日附警保局長ヨリ別紙寫ノ通リ通牒有之候條爲參考此段及通牒候也

寫

警保局警發甲第七一號

警保局長ヨリ各府縣長官宛

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答ノ趣大藏主省計局長ヨリ通知越候ニ付御了知相成度甲號

兵會第一七八號

大正十五年一月十六日

兵庫縣知事ヨリ主計局長宛

違警罪即決ニ因ル拘留處分ニ對シ正式裁判請求ノ爲保證金ヲ提出シタル場合ハ明治四十四年神奈川縣知事ノ請訓ニ對スル依命回答ニ依リ該保證金ハ一件記錄ト共ニ裁判所ニ送致スヘキモノナリトノ理由ニ依リ保管轉換方要求スル向有之候然ニ從來本縣ニ於テハ正式裁判請求ト同時ニ一件記錄ノミ裁判所ニ送致シ保證金ハ即決例ノ範圍ヲ脫スルモノニ付正式裁判ノ結果ニ依ラス本人ノ請求ニ依リ五ケ年間保管シ滿期失效ヲ待テ歲入ニ編入致居候處前記ノ通リ目下差懸リノ件モ有之付テハ御回答ノ趣旨ニヨリ取扱可然哉至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

藏計第二二五號

大正十五年五月四日

主計局長ヨリ兵庫縣知事宛

大正十五年一月十六日附兵會第一七八號ヲ以テ違警罪即決例ニヨル保證金ノ取扱ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ請求ニ係ル正式裁判ノ申立成立シタルコトヲ確メタル後本人ノ請求ニ依リ還付スヘク若シ本人ノ請求ナキトキハ保管金規則第一條ノ規定ニ依ル時效完成ヲ待テ歲入ニ編入スヘキモノト認メ候條此段及回答候也

●刑ノ執行停止ニ關スル件

（明治四十一年十二月十七日）
（保第一八二一號通牒）

違警罪即決例ニ依リ言渡シタル刑ノ執行停止ニ關シ取扱方ノ件別紙ノ通リ宮城縣知事ヨリ照會ニ對シ回答セシ旨內務省警保局長ヨリ通牒有之候條參考相成度此段及通牒候也

警察部長ヨリ各警察官署長宛

別紙

甲號

保秘第二一〇號

明治四十一年十一月十三日

宮城縣知事ヨリ警保局長宛

違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留ニ付警察官署留置場ニ於テ刑ノ執行中刑事訴訟法第三百十九條第二項各號中ノ事故アル場合同第三百二十條ニ準シ即決權者ヲシテ執行停止セシムルモ差支ナキ件ニ關シ本月五日警茨第八八號付御通牒ノ處刑法第十八條第二項ニ依リ言渡シタル勞役場留置者ニシテ警察官署留置場ニ留置スル者ニ對シテハ特ニ之ヲ準用スヘキ法條ナキ限リハ即決權者ニ於テ執行停止ヲ爲スコト能ハサル儀ト思料候ヘ共兩者同一ノ事故アリト假定シ一ハ執行停止ヲ爲シ一ハ之レヲ爲シ得サル結果ヲ生スル等聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御回報煩度及照會候也

乙號

警宮第七九號ノ內

明治四十一年十二月十五日

警保局長ヨリ宮城縣知事宛

客月十三日附保秘發第二一〇號勞役場留置取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ勞役留置者ニシテ刑事訴訟法第三百十九條第

二項ノ規定ノ原由アル場合ト雖モ之レカ執行停止ヲ爲スコトヲ得サル義ト存候此段及回答候也

●拘留ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱方

（明治四十一年十一月七日）
（保第一二〇三號通牒）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ノ件ニ關シ甲號照會有之乙號ノ通リ回答候趣警保局長ヨリ通牒有之候條爲念此段及通牒候也

甲號
保第二七七號
明治四十一年十月二十二日
茨城縣知事ヨリ警保局長宛

乙號
警秘第八八號ノ內
明治四十一年十一月五日
警保局長ヨリ茨城縣知事宛

拘留ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ヘキ場合ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ規定スル所ニ有之候處右停止ハ同法第三百二十條ニ依リ檢事ニ於テ爲スヘキモノニシテ何等除外的規定ヲ認メス然ルニ違警罪即決例ニ依リ警察官署ニ於テ處分セル拘留ニ付テハ警察官署留置場ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テ刑ノ執行ヲ停止スルノ必要アルトキハ刑事訴訟法第三百二十條ニ準シ即決權者ヲシテ執行ヲ停止スルモ差支ナキ儀ト存候得共爲念一應及照會候也

客月二十二日附保第二七七號拘留刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通リ御取扱相成可然存候此段及回答候也

●少年法第十三條ト〔違警罪〕即決例ニ關スル件

（大正十二年十月二十七日）
（保刑第二四四二號通牒）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

表記ノ件ニ關シ別紙寫シノ通リ內務省警保局長ヨリ通牒有之候條爲參考及通知候也

別紙
警發乙第二五號
大正十二年十月二十四日
警保局長ヨリ各府縣長官宛

少年法第十三條ノ勞役場留置ト違警罪即決例ニ依ル科料金ノ納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル件

本件ニ關シ別紙甲號長崎縣知事照會ニ對シ乙號ノ通リ回答取斗置候間御參考迄寫差進候也

保司發第一二七三號
大正十二年五月十八日
長崎縣知事ヨリ警保局長宛

大正十一年法律第四二號少年法第十三條並明治十八年九月第三十一號布告違警罪即決例第十條ノ取扱ニ關シ左ノ通リ疑義有之候條何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

一　違警罪即決例ニ依リ警察官署長又ハ其ノ代理者タル官吏ニ於テ科料ノ言渡ヲ爲シ被告カ其ノ金額ヲ假納セサル場合相

當勞役場ニ留置スヘキコトハ刑法第十八條及即決例第九條ニ明文アリ然ニ右勞役場ニハ少年法第十三條ノ勞役場ヲ包含スルモノト被認果シテ然ハ少年法ノ適用ヲ受クヘキ少年ニ對シテハ科料處分ヲ爲スモ勞役場留置ノ言渡ヲ爲ス能ハサル結果トシテ明治四十一年十一月警發第五七號御通牒ニ依リ雖ク從テ科料金收入ヲ强制スヘキ方法缺如ス此場合ニ處スル方法トシテハ如何ナル取扱ヲ爲スヘキモノナルヤ

二　違警罪即決例第二條第一項ニ依リ拘留四日ノ言渡ヲ爲シ同例第五條ノ期間內タル刑期滿了ノ當日（已ニ當日幾分ノ執行ヲ了ス）ニ至リ被告カ保證金ヲ差出シ放還ヲ求ムル場合ニ於テモ明治四十四年十二月內務省第四三六九號及大正八年十月內務省第一一九號御通牒ノ趣旨ニ依リ取扱フヘキモノナルヤ果シテ然ハ本問ノ場合ニ於テハ當日已ニ幾分ノ執行ヲ爲シ居ルヲ以テ當日ノ執行ハ之レヲ一日ニ計算スルヲ至當トスルニ付キ保證金ヲ徵スル能ハサル結果ヲ生ス然ニ猶且ツ被告ヲ放還セサルヘカラサルヤ或ハ又即決例第八條ニ依リ必要ト認メサルヲ理由トシ該保證金ヲ受理セスシテ被告ヲ放還セサルコトヲ得ヘキモノト解スヘキカ

警發乙特第二五號

大正十二年十月

警保局長ヨリ長崎縣知事宛

標記ノ件ニ付去ル五月十八日保司發第一二七三號ヲ以テ御照會ノ儀ハ左記ノ通ト御承知相成度候

第一項　少年ニ對シテハ少年法第十三條ノ規定ニ依リ勞役場留置ノ言渡ヲ爲ス能ハス從テ警察官署トシテハ違警罪即決例第八條ニ基キ必要ト認メタル場合同第九條ニ依リ留置ヲ爲ス外可然之愚料候得共本條ノ特別處分ヲ此等ノ場合ニ爲スハ穩當ナラサル歟アルノミナラス少年法ノ趣旨ニ副ハサルモノト被存候尙本件ハ刑事訴訟法第三百二十條ノ檢事ノ命令ヲ受クヘキモノニ無之勞本項ハ少年法ノ趣旨ニ則リ勞役場留置ヲ爲ス能ハス執行ノ方法無之儀ト存候

第二項　保證金ヲ徵收スル能ハサルノ結果ヲ生スルモ已ムヲ得サル儀ト存候

追而本件ハ司法省刑事局長ト協議濟ニ付爲念申添候

●〔違警罪〕即決例中疑義ニ關スル件

（明治三十年一月十二日吉江檢事正ヨリ管內司法警察官ヘ通牒）

〔違警罪〕即決例中疑義ノ件ニ付甲號ノ通請訓候處乙號ノ通訓令相成候間御參考ノ爲及回答候也

甲號

〔違警罪〕即決例中疑義請訓

第一條　〔違警罪〕即決例第十條ノ留置日數計算方ハ刑事訴訟法第十五條ニ從ヒ初日ヲ算入セス然レトモ同例第十條但書ニ該當スルモノハ刑事訴訟法ニ依ラスシテ最終ノ日休暇ニ當ルトキト雖留置ヲ解キ其ノ他ノ訴訟手續ニ關スルモノハ刑事訴訟法第十五條ニ從ヒ刑ノ執行ニ關スルモノハ刑法第四十九條ニ依リ計算致シ可然ヤ又ハ全ク刑法刑事訴訟法ヲ引用セス留置拘留及正式裁判請求期間共ニ即日ヨリ起算シ第三日ヲ以テ期間ノ最終ト爲シ可然ヤ

此ノ留置ハ普通刑事訴訟手續上ノ便宜ヲ謀リタルモノトハ異リ刑ノ執行ヲ確保セントスルニ出タルモノニ付即決言渡ヲ爲シタル刑期ヨリ長カルヘカラスト爲シ刑法第四十九條ニ依リ拘留ノ刑期ヲ計算スルト同ク初日ヲ算入スルトキハ刑事訴訟法第十五條ニ依リ計算スヘキ正式裁判請求期間ヲ未タ盡キサル前ニ於テ留置ヲ解カサルヘカラサルニ至ルノミナラス四日ノ拘留ヲ言渡サレタル者留置ヲ解クヤイナヤ逃走スルトキハ其ノ度毎ニ一日ノ刑ヲ執行スルコト能ハサルニ至ルノ不都合アリ然レハ此ノ留置ハ刑ノ執行ヲ確保セントスルノ趣旨ナキニアラスト雖正面ヨリ見レハ訴訟手續ニ相違ナキモノト爲シ一概ニ刑事訴訟法第十五條ニ依リ初日及休暇ニ當リタル最終ノ日ヲ算入セストスレハ即決例第十條但書ノ制限アルニ拘ハラス十二月二十六日ニ三日ノ拘留ヲ言渡シ翌年一月四日日曜日ナルトキハ遂ニ十一日間留置スルコトヲ得ルニ至ルノ不都合アリ又本文前段ノ如クスルモ三日ノ拘留ヲ言渡シ三日ノ留置ヲ命シタルトキハ矢張留置ノ初日一日ハ本刑ヨリ超過スヘシ依テ同例ハ刑法及刑事訴訟法ニ關係ナキ一種特例ト看做シ本文後段ノ如ク留置拘留及正式裁判請求期間共ニ同一ニ起算スルトキハ彼是期間ヲ竝行セシムルコトヲ得ヘシ而シテ此ノ計算方ハ各府縣各

地方及裁判所ト警察署ト解釋ヲ異ニスルモノ多ク被告人ノ利害ニ關スル所多キ趣ニ付全國一定センコトヲ希望ス

第二條　前條ノ留置ハ警察署ニ留置スルヲ正則トスレトモ便宜監獄署ニ留置スルトキハ警察署ハ監獄署ニ對シ指揮ヲ用キスシテ囑託ヲ爲シ隨テ戒護及書類ノ送達ハ監獄署其ノ責ニ任シ可然ヤ

此ノ留置ノ執行指揮ハ檢事ノ職務ノ性質ヲ以テスルモノニ付キ便宜監獄署ニ留置スルトキト雖警察署ハ典獄ニ指揮シ典獄ハ一般刑事被告人ト同ク戒護及書類送達ノ責ニ任スヘシトノ說ト此ノ留置ハ特別法ヲ以テ警察署ニ留置スルモノニ付キ便宜監獄署ニ留置スルトキハ警察署ハ監獄署ニ指揮ヲ用キスシテ囑託ヲ爲シ書類ノ送達ハ警察署其ノ責ニ任スヘシトノ兩說アリ是又一定シテ其ノ責任ヲ明カニセンコトヲ希望ス

乙號

明治二十九年十二月二日日記第七四六四號請訓〔違警罪〕即決例中疑義ニ關スル件ハ左ノ通心得可シ

第一條　〔違警罪〕即決例中期間ノ計算方ニ關スル特別ノ規定ナキニ付同例第五條ノ期間ヲ計算スルニハ刑事訴訟法第十五條ノ例ニ準シ言渡又ハ言渡書送達ノ日ヲ算入セス從テ第十條ノ場合ニ於テモ第五條ト同一ノ期間內留置スルコトヲ得然レトモ第十條但書ノ場合ニ於テ留置日數ヲ計算スルニハ其留置ノ日ヨリ起算ス可シ但警察署ハ無休暇ノ官署ナルヲ以テ刑事訴訟法第十五條中若シ最終ノ日ハ云々以下ノ規定ハ〔違警罪〕即決ニ關シ之ヲ準用スヘキ場合ナキモノトス

第二條　見込ノ通

●〔違警罪〕現行犯ノ郵便脚夫引致方ニ關スル件

（明治十五年九月　達第二五號）

〔違警罪〕現行犯ノ郵便脚夫引致方ノ儀ニ付左之通達有之候條其段相心得注意可致此旨申達候事

（本縣無號警察署ヘ達書）

明治十五年九月二十二日

郵便脚夫（集配人郵便馬車ノ馭者共）郵便物護送集配ノ時ト雖モ萬一違警罪現行犯ノ時ハ〔治罪法第百二條〕ノ場合ニ限リ警察官ニ於テ引致候ハ勿論ニ候得共郵便ノ義ハ其遲速ニ依リ公衆ノ便否ニ關スル不勘ヲ以テ瞬時ヲ爭ヒ遠達ヲ要スル義ニ付其次第差含ミ引致ニ際シ逃亡ノ恐レ有之哉否ヲ篤ト注意可致ハ勿論不得止引致候共携帶郵便物ハ可成遞送配達ヲ遂ケ取扱候樣夫夫相達置旨驛遞總官ヨリ照會有之候條各警察署分署等ヘ通達可取計此旨相達候事

●陸軍軍人軍屬〔違警罪〕處分例

（明治十九年五月二十　日　勅令第四十四號）

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル〔違警罪〕ハ〔違警罪〕即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ〔違警罪〕即決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條　軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

●海軍軍人軍屬（違警罪）處分例

（明治二十二年十月二日法律第二十五號）

第一條　海軍軍人軍屬ノ犯シタル（違警罪）ハ（違警罪）即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ（違警罪）即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致ス可シ

第六條　海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦船團長又ハ被告人所在ノ地ノ軍法會議主理ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五章　裁判所構成

●裁判所構成法（抄錄）

（明治二十三年二月十日法律第六號）

沿革　明治三八年三月法律第六七號、三九年五月第五〇號、四一年三月第一〇號、同年三月第三〇號、四四年四月第七一號、大正二年四月第六號、同三年四月第三九號、一〇年五月第一〇一號、一一年四月第五三號、一四年三月第五號改正

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院

第四　大審院

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク